

政治経済学部

# 教養演習要項

2026年度

明治大学

## 1 演習とは!?

演習は、ゼミナールともいい、教員の指導の下、学生が自分の研究テーマを設定し、発表・討論を行う授業形式である。構成員は、通常、少人数の学生（10～20名程度）とひとりの教員である。学生は研究の過程において、資料を収集し、意見を集約の上、授業等を通して研究成果を発表し、議論を展開している。教員は適宜、必要なアドバイスをを行い、学生を指導する。こうした過程を経て、自分の意見を反芻しながら研鑽し、研究成果を論文やレポートにまとめることを目的とした授業である。

政治経済学部では、1・2年生が履修する演習形式の授業として、「教養演習」を設けている。教養演習は、1・2年生が学問的スキルの基本を学ぶとともに、教養を高めることを目的として各演習が開講されている。

## 2 設置科目

入学年度で履修可能な科目が限られているので注意すること。

◆科目名・・・教養演習ⅠA・教養演習ⅡA・教養演習ⅠB・教養演習ⅡB・  
教養演習ⅠC・教養演習ⅡC

## 3 科目区分と単位

	学年学期	科目名称	学年学期	科目名称
半期型 (2単位)	1年次春	教養演習ⅠA	1年次秋	教養演習ⅠB
	2年次春	教養演習ⅡA	2年次秋	教養演習ⅡB
通年型 (4単位)	1年次春・秋	教養演習ⅠC		
	2年次春・秋	教養演習ⅡC		

## 4 履修手続

### (1) ガイダンス・選考試験

履修を希望する演習の**初回授業に必ず出席**すること。初回授業において、ガイダンスを実施し、一部の演習では、選考試験や事前課題を課す。(開講曜日時限は、裏表紙を参照)

### (2) 履修登録

掲示・ガイダンスで担当教員から履修許可を得た学生は、履修登録期間に履修登録をすること。

### (3) 「教養演習ⅠB」・「教養演習ⅡB」・「基本演習Ⅱ」選抜時期

「教養演習ⅠB」・「教養演習ⅡB」・「基本演習Ⅱ」は、秋学期開講のため9月の初回授業時に選抜を行う。

## 5 留学における取り扱い

教養演習 I C・II Cは通年科目（4単位）のため、春学期もしくは秋学期に留学する学生は履修することができないが、下記の条件を全て満たす場合には、教養演習 I A・II A（春学期2単位）もしくは教養演習 I B・II B（秋学期2単位）としての履修を認める。

- 1 春学期初回授業に出席し、担当教員からの履修許可を得る。
- 2 履修許可を得る際に、春学期もしくは秋学期に留学することを伝え、半期のみの履修として履修許可を得る。
- 3 上記1、2の履修許可を得た後、所定用紙に担当教員の署名をもらい、政治経済学部事務室まで提出する。（所定用紙は、政治経済学部事務室にて配布）

## 教養演習担当者一覧表（開講曜日・時限順）

授業科目名	単位数	開講期間	対象学年	曜日	時限	担当教員名	演習テーマ	頁
教養演習IC・IIC	4	通年	1・2	月	2	本間 次彦	『史記』の世界	4
教養演習IC・IIC	4	通年	1・2	月	2	小西 淳文	JICA「課題別指針」や「SDGs」の理解と企画力・政策立案力の育成	5
教養演習IC・IIC	4	通年	1・2	月	2	ベナザリオ・ベルルッキ・アントニオ	Democracy, democratic backsliding, populism and polarization	6
教養演習IC・IIC	4	通年	1・2	月	3	遠藤 直樹	方程式の解の公式と群論	7
教養演習IC・IIC	4	通年	1・2	月	4	井上 和哉	日韓食文化比較	8
教養演習IC・IIC	4	通年	1・2	月	5	中村 幸一	台湾研究	9
教養演習IC・IIC	4	通年	1・2	月	5	羽根 次郎	貧困と周縁社会——ヤクザと革命の生まれ方	10
教養演習IC・IIC	4	通年	1・2	水	1	高橋 聡	文庫・新書を通じて人間と社会を知る	11
教養演習IC・IIC	4	通年	1・2	水	2	ジョージ, ジョニー E.	Language Mysteries	12 ※
教養演習IC・IIC	4	通年	1・2	水	3	森本 陽美	スポーツと法学	13
教養演習IC・IIC	4	通年	1・2	水	3	高峰 修	ジェンダー研究入門	14
教養演習IC・IIC	4	通年	1・2	水	3	平山 茂樹	ダンス・身体・映像	15
教養演習IC・IIC	4	通年	1・2	水	3	武田 和久	グローバル・ヒストリー:初期近代(16-18世紀)を中心に	16
教養演習IC・IIC	4	通年	1・2	水	3	佐々木 菜緒	ケベックの「物語」研究	17
教養演習IC・IIC	4	通年	1・2	水	4	石井 千春	日本近現代文学を読む	18
教養演習IC・IIC	4	通年	1・2	水	4	堀越 喜晴	争わざるピリオオバトル	19
教養演習IC・IIC	4	通年	1・2	水	5	針ヶ谷 雅子	環境を考える～ともに生きる社会のつくりかた～	20
教養演習IC・IIC	4	通年	1・2	水	5	後藤 光将	スポーツで社会を動かす	21
教養演習IC・IIC	4	通年	1・2	水	5	佐原 徹哉	外国メディアから学ぶ現代世界の複合危機	22
教養演習IC・IIC	4	通年	1・2	木	1	ブルチャー, ミヒヤエル	The Meiji Restoration and Meiji Constitution	23
教養演習IC・IIC	4	通年	1・2	木	2	佐久間 寛	映像から学ぶ文化人類学の世界	24
教養演習IA・IIA	4	通年	1・2	木	2	陣野 俊史	サッカーを語り尽くす	25
教養演習IC・IIC	4	通年	1・2	木	2	柴崎 文一	プレゼンテーションで世界を変える!～TEDの世界～	26
教養演習IC・IIC	4	通年	1・2	木	2	田村 久男	ドイツ——生活と文化、歴史	27
教養演習IC・IIC	4	通年	1・2	木	2	海野 素央	ドナルド・トランプ大統領のリーダーシップスタイルとコミュニケーションスタイル	28
教養演習IC・IIC	4	通年	1・2	木	3	デヴェラ, ローナヴェリア	Japanese Culture in English for Cross-Cultural Exchanges ～国際異文化交流に向けて英語で日本文化を語る～	29 ※
教養演習IC・IIC	4	通年	1・2	木	3	富澤 成實	夏目漱石と村上春樹を読む	30
教養演習IC・IIC	4	通年	1・2	木	3	大森 正之	「文系の環境問題スペシャリスト養成」講座	31
教養演習IC・IIC	4	通年	1・2	木	3	アベン・ヘムディヤン・セラゲ, ニロス・チャミンダ	Changing Power Dynamics of Asian Politics	32
教養演習IC・IIC	2	通年	1・2	木	4	小林 広直	英語原文と翻訳の双方で文学作品の「精読」の愉しみを学ぶ	33
教養演習IC・IIC	4	通年	1・2	木	5	武田 紘平	理論と実践から自身の体を知る	34
教養演習IC・IIC	4	通年	1・2	木	5	齋藤 雅己	Economic Affairs(経済事情)	35
教養演習IC・IIC	4	通年	1・2	金	2	宮崎 イキサン	経済指標のwhat and so what	36
教養演習IC・IIC	4	通年	1・2	金	3	金子 隆一	人口とライフコースの変化から視る未来社会	37
教養演習IC・IIC	4	通年	1・2	金	3	森下 正	ベンチャー・中小企業経営研究	38
教養演習IC・IIC	4	通年	1・2	金	3	春日井 淳夫	体力・運動能力・健康度を探る	39
教養演習IC・IIC	4	通年	1・2	金	3	野口 健	町づくりを考えてみよう	40
教養演習IC・IIC	4	通年	1・2	金	5	永川 聡	現代ドイツ政治談議	41
教養演習IA・IIA	2	春	1・2	月	2	ヨーク, ジェームズ	ゲームの教育的な可能性について	42
教養演習IA・IIA	2	春	1・2	火	1	樋口 収	社会科学スタディーズ入門	43
教養演習IA・IIA	2	春	1・2	水	1	兼子 歩	ジェンダーで考える歴史	44
教養演習IA・IIA	2	春	1・2	水	3	嶋田 直哉	舞台芸術の魅力	45
教養演習IA・IIA	2	春	1・2	水	4	杉田 弘毅	メディアの仕組みとその役割	46
教養演習IA・IIA	2	春	1・2	木	2	星野 泉	財政と税入門	47
教養演習IA・IIA	2	春	1・2	木	5	森本 陽子	英語で学び、協働し、発信する — 留学に備え、未来につながる脳科学X実践プロジェクト —	48 ※
教養演習IA・IIA	2	春	1・2	金	2	仮屋 浩子	演劇を介してコミュニケーション力を向上させよう	49
教養演習IA・IIA	2	春	1・2	金	3	植田 麦	生成AIを活用する	50
教養演習IA・IIA	2	春	1・2	金	5	相原 耕作	社会科学スタディーズ入門	51
教養演習IB・IIB	2	秋	1・2	月	2	ヨーク, ジェームズ	デジタルゲーム制作を通して、プログラミングの基礎を学ぼう	52
教養演習IB・IIB	2	秋	1・2	火	2	前田 更子	フランスからみえる世界——社会、政治、文化、人の暮らし——	53
教養演習IB・IIB	2	秋	1・2	火	3	瀧口 翠	くずし字で書かれた文章を読む	54
教養演習IB・IIB	2	秋	1・2	水	1	兼子 歩	現代社会をジェンダーで考える	55
教養演習IB・IIB	2	秋	1・2	水	2	丸川 哲史	魯迅を読む	56
教養演習IB・IIB	2	秋	1・2	水	3	嶋田 直哉	読書マラソン—日本近代文学編	57
教養演習IB・IIB	2	秋	1・2	木	4	山岸 智子	中東の戦争と平和を考える	58
教養演習IB・IIB	2	秋	1・2	木	5	森本 陽子	英語で学び、協働し、発信する — 留学に備え、未来につながる脳科学X実践プロジェクト —	59 ※
教養演習IB・IIB	2	秋	1・2	金	3	植田 麦	生成AIを活用する	60
教養演習IB・IIB	2	秋	1・2	金	5	相原 耕作	社会科学スタディーズ入門	61

※当該授業の修得単位は、一部、ACE 修了要件に含めることができる。詳細は、ACE ガイダンス資料を参照すること。

次頁に、各演習の関連分野・キーワード・開講曜日時限を記載した一覧表を掲載



**演習テーマ：『史記』の世界**

**授業内容・授業到達目標：**

紀元前の2世紀から1世紀にかけての中国に生きた一人の歴史家、司馬遷を著者とする『史記』は、いろいろな意味で初めてづくしの著作として知られます。

まずそれは、中国において初めて著者の名が明示された歴史書として世に登場しました。もちろん、中国では、それ以前から多くの歴史書が編纂されていましたが、それらの歴史書はあくまで匿名の史官たちによって記述されるものでした。

次にそれは、世界の歴史がはじまって以来の全歴史を記述することを目指したものでした。それ以前の歴史書が、限られた時間と空間の中での歴史記述を前提としていたこととくらべ、その目標は破格なものでした。そして、そのような目標を実現するために『史記』が創始したのが、新たな歴史記述の形式でした。王朝史としての「本紀」、王朝の制度史としての「書」、群雄史としての「世家」、個人史としての「列伝」が、それにあたります。

もう一つつげくわえるなら、世界の空間的な広がりや歴史的な時間の交差するさまを、「年表」という形式で整理してみせたのも、『史記』の独創でした。

『史記』の登場は、その後の歴史記述に決定的な影響をあたえたという意味で一つの事件ともいえるべきものでした。なにより、それは、この二千年来、数多くの読者を魅了するテキストでした。その魅力の源泉を探ること、項羽と劉邦の物語にとどまらない『史記』の世界の奥行きを探訪することを、この演習では目指したいと思います。

**教科書・使用教材：**

随時プリントを配布します。

**受講希望者に対する希望・準備学習の内容：**

中国の伝統文化に対し関心をもち、かつ、『史記』についても相応の興味をもっている方であれば、どなたでも歓迎します(『史記』の原文を直接読むわけではないので、その点は、ご心配なく)。

武田泰淳『司馬遷 史記の世界』をできれば一読して(おいて)ください。

毎回の授業には、前回までに配布した資料を再読して臨んでください。

**成績評価方法：**

授業時発表60%、課題提出40%

教員の研究分野…中国前近代思想

募集人員…10名程度

募集方法…ガイダンスの際に説明します。なお、ガイダンスの際には、志望理由をあらかじめ200字程度にまとめて持参してください(様式は自由でかまいません)。

政経教養セミナー投稿 2024年度 有・2025年度 有

演習テーマ：JICA「課題別指針」や「SDGs」の理解と企画力・政策立案力の育成

授業内容・授業到達目標：

【春学期】

- (1) 日本の政府開発援助を担う JICA が策定している課題分野ごとの「課題別指針」や「グローバル・アジェンダ」と、国連の開発目標である「SDGs」を理解し、それぞれの課題を抱える開発途上国の現状を確認した後に、どのような援助プロジェクトを策定し、実施すれば良いか、企画書の第一次案を各自単独で取りまとめる
- (2) 次に、グループ(3～4名程度)で意見交換し、グループとしての企画書を完成させた後に、受講生全体で討議する。
- (3) その後、各グループが作成した企画書を JICA が実施したプロジェクトと比較し、さらにブラッシュアップすることにより、各自の企画力を向上させることが目標。  
各課題について、概ね2～3回1セットの演習になります。

- 1 回目 JICA 課題別指針と SDGs について
- 2～4 回目 SDGs4 「基礎教育」(エチオピア)
- 5～7 回目 SDGs3 「母子保健」(セネガル)
- 8～9 回目 SDGs7 「水資源」(セネガル)
- 10～11 回目 SDGs14 「水産」(セネガル)
- 12～14 回目 SDGs1 「貧困削減」(ミャンマー)

【秋学期】

- (1) 開発途上国のみならず、日本や国際社会全体が抱えている各課題(SDGs)について、現状を確認した後に、適切な政策の素案を各自単独で取りまとめる。
  - (2) 次に、グループ(3～4名程度)で意見交換し、グループとしての政策提案書を完成させた後に、受講生全体で討議し、必要となる修正を加える。
  - (3) 各自の政策立案力を向上させることが目標。  
各課題について、概ね2～3回1セットの演習になります。
- 1～3 回目 SDGs 1 「貧困削減」(日本)
  - 4～6 回目 SDGs 5 「ジェンダーと開発」(南スーダン)、(日本)
  - 7～9 回目 SDGs 13 「気候変動対策」(世界)
  - 10～12 回目 SDGs 12 「廃棄物管理」(世界)
  - 13～14 回目 SDGs 11 「都市開発」(セネガル)、(マレーシア)、(日本)

教科書・使用教材：

授業では講師が作成した独自資料のもとに授業を進めます。参考資料は次の通りです。  
事業・プロジェクト - JICA <https://www.jica.go.jp/activities/index.html>

受講希望者に対する希望・準備学習の内容：

復習として、「国際協力機構ホームページ」→「研究者の方の欄」→「JICA 図書館ポータルサイト」  
→「JICA 報告書・図書・雑誌」にアクセスし、理解を深めてください。関連情報が数多くあります。  
JICA 図書館ポータルサイト <https://libportal.jica.go.jp/library/public/Index.html>

成績評価方法：

企画書の評価(10%×5=50%)  
政策提案書の評価(10%×5=50%)

教員の研究分野…開発経済学(開発経済学の潮流と援助戦略の変遷)

開発経済学(持続可能な開発-成長と環境の調和-)

(注) 担当教員は JICA 役職員として勤務した 29 年間、開発途上国支援についてその計画策定と実施監理、評価を担ったほか、外務事務官、外交官(特命全権大使を含む)としての 7 年間の勤務経験あり。また、業務の傍ら 3 冊の書籍を出版。

募集人員…15 名程度

募集方法…抽選

政経教養セミナー投稿 2024 年度 無・2025 年度 無

演習テーマ：Democracy, democratic backsliding, populism and polarization

授業内容・授業到達目標：

Liberal democracy is undergoing a profound crisis. Economic stagnation, rising inequality, and unemployment have deepened the divide between the winners and losers of globalization, intensifying social divisions and polarization. Meanwhile, additional shocks such as mass migration and terrorism have fueled widespread dissatisfaction with the liberal democratic model, paving the way for the rise of authoritarian and populist forces.

Against this backdrop, as Western powers struggle to maintain their international influence, alternative governance models are gaining traction globally. The growing influence of authoritarian systems, exemplified by China and Russia, has further eroded confidence in the ideals of Western liberal democracy. This course explores the key themes, challenges, and transformations faced by Western democracies in this turbulent era.

Session 1: Introduction  
Session 2: Conceptualizations of democracy  
Session 3: Measures of democracy  
Session 4: Democratic backsliding  
Session 5: Democracy vs Autocracy  
Session 6: Elections (Part I)  
Session 7: Elections (Part II)  
Session 8: Elections (Part III)  
Session 9: Perils of Presidentialism  
Session 10: Democratic backsliding in Venezuela  
Session 11: Democratic backsliding in Hungary  
Session 12: Democratic backsliding in Turkey  
Session 13: Summary  
Session 14: Students' presentations

Session 1: Introduction  
Session 2: Definitions of populism  
Session 3: Measures of populism  
Session 4: Populism and liberal democracy  
Session 5: What causes populism?  
Session 6: Who votes for populist parties/leaders?  
Session 7: Mini-research project on populism and its causes  
Session 8: Polarization (Part 1)  
Session 9: Polarization (Part II)  
Session 10: Measuring polarization (workshop)  
Session 11: Documentary  
Session 12: Polarization and liberal democracy  
Session 13: Summary  
Session 14: Students' presentations

教科書・使用教材：

There is no specific textbook for this course. Weekly readings will be made available on the Oh-o! Meiji learning platform.

受講希望者に対する希望・準備学習の内容：

There are no prerequisites for this course. Since the course is taught in English, students are required to be able to read and communicate in English. Active participation and an interest in contemporary politics are encouraged.

Students are expected to thoroughly review the assigned materials on their own before each class. Classes will include individual and group presentations based on the readings, followed by in-class discussions or group activities where active participation is essential. Additionally, students will occasionally present on their personal research topics to contribute to a broader understanding of the subject matter.

成績評価方法：

Class participation: 50%  
Presentations (Individual or Group): 25%  
Report(s): 25%

教員の研究分野…Comparative Politics

募集人員…No limit

募集方法…Open enrollment (English proficiency is required for this course).

政経教養セミナー投稿 2024年度 無・2025年度 無

専任講師 遠藤 直樹 月曜3時限(通年)

担当科目：線形代数学I、II、III、IV、解析学I、II、基礎数学、数学概論

### 演習テーマ：方程式の解の公式と群論

#### 授業内容・授業到達目標：

本演習では、高校数学とは少し毛色の異なる数学である「群論」を扱う。群論の淵源は、方程式の解の公式の研究にある。中学生の頃に学んだ2次方程式の解の公式は、古代バビロニア時代には既に知られていたとされるが、3次方程式や4次方程式の解の公式が発見されたのは、実は16世紀に入ってからのことである。その後、5次以上の方程式に対しても解の公式について研究が継続され、最終的にはアーベルによって5次以上の方程式には解の公式が存在しないことが証明された。その際、ラグランジュによって齎された方程式の解に内在する一見不可視の対称性を考察するという着想が大きな役割を果たし、これが後の群論として発展していくきっかけとなった。

本演習は、方程式の解の公式の歴史を出発点に、集合や写像、同値関係など、現代数学の基盤を成す知識を学び、本論である群の理論へと進む計画である。

本演習は輪講形式で行う。輪講とは、1つのテキストを複数人のグループで読み解いていく勉強法のこと、数学の世界では標準的な方法である。順番に発表者を決め、当番の人の説明にそれ以外の参加者が質問やコメントをしながら演習を進める。

#### 教科書・使用教材：

遠藤直樹、高木悟 著『群論への途』共立出版

#### 受講希望者に対する希望・準備学習の内容：

必ず予習・復習をすること。特に、本演習は輪講形式で演習を進めるため、予習は不可欠であり、また発表用のノート作成は必須である。なお、並行して、基礎数学を履修することが望ましい。本格的な数学を学ぶ意欲のある学生を歓迎する。

#### 成績評価方法：

発表内容100%で評価する。

教員の研究分野…代数学

募集人員…5名程度以下

募集方法…初回授業で決定する。希望者多数の場合は面接により選考する。

政経教養セミナー投稿 2024年度 無・2025年度 無

## 演習テーマ：日韓食文化比較

### 授業内容・授業到達目標：

#### 概要

本ゼミの目標は、日本と韓国の食文化における共通点や相違点を探り、食という窓を通して両国の文化・社会・歴史への理解を深めることです。食には、その土地の地理的条件、歴史的背景、そして政治経済の変遷が凝縮されています。本ゼミでは、単に「おいしい料理」を知るだけでなく、「なぜその違いが生まれたのか」という背景を、文献調査とフィールドワーク（実地調査）の両面から科学的に解明することにチャレンジします。

韓国の飲食店で使われるステンレス製の蓋付き茶碗(밥공기)が、なぜあのような形・量で統一されているのか。その背景には、韓国の高度経済成長期における国家政策が深く関わっています。このように、身近な「食」の疑問から社会の仕組みが見えてくる面白さを、ぜひ一緒に体験しましょう。

#### 到達目標

- ・ 日韓の食文化の差異を、歴史的・社会的背景（例：産業化や生活習慣の変化）と結びつけて論理的に説明できる。
- ・ 3人1組のグループワークを通じ、適切なテーマ設定、資料収集、多角的な分析を行う能力を習得する。
- ・ フィールドワークを通じて得た一次情報と、先行研究を統合し、説得力のあるプレゼンテーションおよび論文執筆ができる。

#### 年間計画

調査・発表は原則として3名1組のグループで行います。

##### 【前期：基礎調査と中間発表】

- ・ 4月～5月：テーマ選定とリサーチ 食に関わること全般（食材、料理、食器、作法、外食産業など）からグループごとに問いを立てます。
- ・ 6月～7月：中間発表 書籍やインターネットを用いた調査結果を発表します。発表者は事前に内容を告知し、他の学生はそれに基づき質疑応答の準備をして臨みます。

##### 【夏休み：フィールドワーク】

- ・ 実際に現場（専門店、市場、博物館など）を訪れ、調査テーマに沿った実地調査を行います。

##### 【後期：分析と最終成果の作成】

- ・ 10月～11月：フィールドワーク報告 前期の机上調査と、夏休みの実地調査で得られた結果の「同異」を分析し、発表します。
- ・ 12月～1月：最終成果の執筆 一年間の集大成として、ゼミの結論を『政経教養セミナー』に寄稿します。

### 教科書・使用教材：

教科書は指定しないが、随時推薦していく。

### 受講希望者に対する希望・準備学習の内容：

受け身にならず、積極的にリサーチに取り組むように。

受講者は自分の計画実行力を向上させる意識を強く持ってゼミに参加してください。

### 成績評価方法：

平常点(30%)：ゼミ内での議論への貢献度、他グループへの質疑応答。

プレゼンテーション(30%)：前期・後期の発表内容、資料の完成度。

最終レポート(40%)：『政経教養セミナー』に執筆する原稿の質と論理性。

教員の研究分野…英語・韓国語・観光

募集人員…18名

募集方法…希望学生の人数に応じて決める(希望調査テーマを書いてもらうことが多い)。

政経教養セミナー投稿 2024年度 有・2025年度 有

**演習テーマ：台湾研究**

**授業内容・授業到達目標：**

台湾と聞いて何を考えるだろうか。

タピオカミルクティー（珍珠奶茶）、魯肉飯、親日的、という感じかもしれない。たしかに他国に比べ、総じて親日的なのは事実だが、日本に関心がない、あるいは親日でない台湾人はいくらでもいる（ところが彼らの父母、祖父母の世代は、本省人の場合、日本語を知っていることが多い）。現実の台湾は複雑極まる社会で、日本とはなにもかも真逆である。まず、歴史的に何層も重なる他民族国家で、言語も、台湾語、客家語、台湾華語、原住民語、「新移民」の言語（インドネシア語など）と多様である。「国語」は通じるけれども、台湾華語（＝「國語」）とは、発音、声調、語彙は、微妙に、というより、かなり違う（そもそも拼音（ローマ字表記）は使われない：ㄊㄞˋㄩˋㄇㄠˊ＝臺灣、という具合に「注音符號」を使う）。MRT（捷運）の駅名などは、4、5ヶ国語でアナウンスされている。また大学のテキストは英語で書かれたものが多い。知識人はほとんどすべて英語圏に留学している。「總統」は国民が自ら投票で選出できる。民主主義指数はアジアでトップである。世界だと10位、日本は16位だから、日本よりも民主的なのだ。2020年の總統選挙の投票率は7割、日本と真逆で、若者ほど熱心であり、9割近かった。同性婚もアジアで初、2019年に合法化された。日本の殖民統治が50年あったために、日本文化の影響も受けてはいるが、すべてがガラパゴスの日本とは、なにかから何までまったく違う。こういう、近くて（往路3時間20分、復路2時間40分）、遠い台湾の政治、文化、社会、歴史、宗教、風習をより深く知り、理解することがこの演習の目的である。箸休め的に、すこし台湾華語の練習をするかもしれない。

**教科書・使用教材：**

『台湾を知るための72章』（明石書店）。

**受講希望者に対する希望・準備学習の内容：**

台湾にポジティブで強い関心があること。

**成績評価方法：**

発表の際のレジュメ、話の内容で評価する。

教員の研究分野…台湾文化研究、比較言語学

募集人員…7人

募集方法…人数が多ければ、初回授業の際、面接を行う。

政経教養セミナー投稿 2024年度 無・2025年度 無

演習テーマ：貧困と周縁社会——ヤクザと革命の生まれ方

授業内容・授業到達目標：

貧困の存在を社会経済的な前提条件としている社会構造において、「弱者救済」をどんなに謳ったところで、結局歴史上現れてきたのは「ヤクザ」と「革命」——つまりは、「平和な相互扶助」ではなく、「暴力に支えられた相互扶助」でしかなかった。

そんな「相互扶助」の「伝統」すら、近年の日本では一見したところ、破防法と暴対法のツープラトンによって窒息させられているかに見える。ただよく考えると、現実には、闇バイトも大久保公園の立ちんぼも後を絶たない。それはそうだ、貧困がビルトインされているのだ。祈っていても暴力はなくなるらない。

貧困とは、革命の震源である。数千年の歴史を持つ中国での王朝転覆もほとんどは、安定した職を持ってないアウトローな人びとが関係してきた。日本でも、周縁化されたアウトロー社会がいくつも存在している。だが、100万円を超える学費を払って、首都圏にも住める条件に恵まれた皆さんから、こうした周縁社会での貧困—暴力—革命のトライアングルは見えているだろうか。

この教養演習は、不可視化された「貧困」と「周縁」への理解を深め、暴力と社会との関係の問題を議論することを目指すゼミである。

教科書・使用教材：

- ・鶴見良行『バナナと日本人：フィリピン農園と食卓のあいだ』、岩波新書、1982年。
- ・宮崎学『ヤクザと日本：近代の無頼』、ちくま新書、2008年。
- ・筆坂秀世、宮崎学『日本共産党vs. 部落解放同盟』、にんげん出版、2010年。
- ・レーニン『帝国主義論』、光文社古典新訳文庫、2006年。
- ・福本勝清『中国革命を駆け抜けたアウトローたち』、中公新書、1999年。など

受講希望者に対する希望・準備学習の内容：

- ・体育会学生については、クラブ活動による欠席が見込まれる場合、志望を認めない。
- ・ゼミ合宿実施の可能性があるため、参加可能であることを志望の条件とする。
- ・ゼミ生と積極的に交流すること。

成績評価方法：

- ・発表内容30%、授業への貢献度70%
- ・毎回出席し、遅刻をしないこと。
- ・無断欠席の学生や、(理由があっても)頻繁に欠席する学生の単位は認定しない。
- ・議論に積極的でない学生については、「授業への貢献度」が低いものとみなす。

教員の研究分野…中国近現代史、清末台湾史、日中関係史、労働運動史(とくに1950～60年代の北海道)

募集人員…5～10名

募集方法…①「自己紹介」(内容自由、1200字以上)と②「志望の動機」(800字以上)をともに作文し、メールで提出すること(yugenzemi@gmail.com)。4月11日(土)13時を提出締切とする。時間を守れる人柄かを確認する意味もあるため、締切をわずかでも過ぎた提出は一切認めない。その後、初回ゼミ時に意思確認を行い、可否を判断する。なお、春学期あるいは秋学期のみの履修は認めない。

政経教養セミナー投稿 2024年度 有・2025年度 無

**演習テーマ：文庫・新書を通じて人間と社会を知る**

**授業内容・授業到達目標：**

この演習では読書会を実践します。第1の目標は、比較的安価な新書・文庫または同価格帯の単行本を読むことで読書習慣をつくり、読む・語る・書くという大学&社会生活で必要となる学びの基本スキルを身に着けることにあります。第2の目標は知的コミュニティの形成です。せっかく大学に入学したのだから、遊び友達だけでなく知的交流のできる人間関係もつくって卒業してほしいと願っています。本を読んでも、読後に語りあい、文章を書くという場は、ほとんどの人がこれまで経験したことがないと思います。

教員と学生の推薦書を交互に読みます。最初は、鳥谷昌幸『となりの陰謀論』講談社現代新書または佐藤卓巳『あいまいさに耐える』岩波新書を取り上げます。小説や詩などでもできれば読みたいと考えます。具体的な授業内容は、読む→問題を立てる→議論する→メモをとる→レビュー執筆のサイクルで進める予定です。このほかプレゼンやZINE(同人誌)での発信も試みます。

**教科書・使用教材：**

書籍を各自購入すること。

**受講希望者に対する希望・準備学習の内容：**

- ①1冊を2～3回で終えるのでしかるべき読書時間を必ず確保すること。
- ②自分から発言しないと何もない時間が過ぎて終わる。発言、メモづくりなどで議論の場や雰囲気づくりに貢献ができるかどうかを履修前に考えてほしい。

**成績評価方法：**

1. 1200字程度のブック・レビューを年間4～5回(75～80%)
2. 発言・メモづくりなど授業への貢献度(20～25%)

教員の研究分野…資本主義経済の研究

募集人員…10名程度

募集方法…エントリーシートで選抜する。提出メアドは4月1日以降オーマイジに公表する。初回の前日火曜日12:00(昼)がしめきり。WordA4紙1～2枚程度に以下の項目を書くこと。①氏名、②学年・組、③住所・メアド(PC)、④出身校、⑤サークル・バイト(新入生は予定)、⑥自己PR:性格・趣味・特技、高校または大学で何をやってきたか、大学で何を学んでみたいかなど。⑦おすすめの本とその概要、気に入った文章など。

政経教養セミナー投稿 2024年度 無・2025年度 無

准教授 ジョージ, ジョニー E. 水曜2時限 (通年)

担当科目 : 英語、ACE、専門演習

演習テーマ : Language Mysteries

授業内容・授業到達目標 :

Language is an important tool we all use in our daily lives. We will go on a roundabout tour of language concepts through the lens of sociolinguistics, and consider questions such as: What is the relationship between culture and language? Do Japanese and English speakers really communicate differently? What happens if a child begins life without language? How do first language and second language acquisition differ? How does an artificial language differ from a natural language?

We will use various media to explore language. You will have discussions in groups and as a class. You will lead the class on linguistic related topics of your choice. You will learn Toki Pona.

The primary aims of this course are for you to:

1. Improve your ability to comprehend English texts
2. Think critically about various social issues
3. Discuss and exchange ideas with your peers

教科書・使用教材 :

No text. Materials distributed to the class.

受講希望者に対する希望・準備学習の内容 :

Applicants should have the confidence to speak or read in English. The class will be decided based on a self-introduction and a short writing response.

応募者は、英語で話すまたは読む自信を持っている必要があります。クラスは、自己紹介と短いライティング応答に基づいて決定されます。

(留学生の場合、特定の条件を満たす場合には、教養演習 A/B として 1 学期間のみの履修が認められます。詳細については政経学部の事務室までお問い合わせください。)

成績評価方法 :

Participation 30% Quizzes 20% Short writing 20% Leading class discussion 30%

This class can be taken for 2 ACE credits.

2 単位分については「ACE 修了 要件」の一部として読み替え可能とする。

教員の研究分野…社会言語学

募集人員…12 人

募集方法…初回のガイダンス時に決定

政経教養セミナー投稿 2024 年度 無・2025 年度 無

## 演習テーマ：スポーツと法学

### 授業内容・授業到達目標：

スポーツは健康の維持・増進、健全な精神の育成のため社会的に認められた有意義な活動である。しかし、万全の注意を払っても事故の発生する場合もある。このような事故の法的処遇として、刑事上は違法性が阻却され罪に問われないことが多い。一方、民事上は損害賠償が問題となるが、実際には「危険の引受」・「過失相殺」法理などを用いて加害者・被害者の行為と責任のバランスを考えた上での解決が図られる。

スポーツ界固有の法的紛争解決機関として、1984年に国際オリンピック委員会によりスポーツ仲裁裁判所（CAS: Court of Arbitration for Sport）が設立された。オリンピック選手や理事の選考基準、ドーピング問題等をスポーツ界で審理し解決することを目的とした一審制の仲裁機関である。

国内においては、2003年に日本スポーツ仲裁機構が設立され、CASを用いるより時間・労力・金銭を節約しつつ問題解決が図れるようになった。

東京オリンピック招致をめぐる誘致の関係者、電通や博報堂のスポーツビジネスの腐敗が刑事事件となっている。スポーツ競技は巨万の富を生み出すが故に生じる贈収賄や詐欺等の犯罪である。本ゼミにおいては、国内外の提訴された様々な事案から、訴えの理由や係争点、判決・仲裁内容等を検討したい。また、スポーツに関わる諸問題のうち、国家の刑罰権を用いる必要があるほどの深刻な犯罪行為についても検討したい。

### 教科書・使用教材：

大阪弁護士会編『スポーツ法相談ハンドブック』2024年

井上典之著『スポーツを法的に考えるⅠ』2021年

静岡県弁護士会著『裁判例からわかる スポーツ事故の法律実務』2020年等

### 受講希望者に対する希望・準備学習の内容：

スポーツ法学は近年とくに注目されており、その範囲は多岐にわたり色々な学問分野と関連があります。ですから、独創性と積極性のある学生を求めます。専門的知識よりも好奇心と広い視野が必要とされます。日頃からの準備としては、スポーツに関わる紛争に加えて、日常の裁判記事や社会問題を注意深く見ていく態度を持ちましょう。

### 成績評価方法：

授業時課題60%、発言内容20%、演習への貢献20%

教員の研究分野…法律

募集人員…15-20名

募集方法…募集人員超の場合はガイダンス出席者から選抜（当日の志望書と面接）

政経教養セミナー投稿 2024年度 無・2025年度 有

教授 高峰 修 水曜3時限 (通年)

担当科目：運動学演習、ジェンダー論 I、身体文化論、専門演習

### 演習テーマ：ジェンダー研究入門

#### 授業内容・授業到達目標：

このゼミではジェンダー研究やフェミニズムの基礎知識について理解を深め、それに基づき身の周りや社会で起こっている事象を解釈できるようになることを目標とします。そのためにジェンダーやセクシュアリティ、あるいはフェミニズムについて読み、調べ、考え、生産するという一連のアカデミックな作業を体験します。

ジェンダーやフェミニズムという言葉は最近でこそ日常的に使われるようになりましたが、しかしその理解は表層的なものであったり、場合によっては勘違いであったりします。それらについての理解を深めることは、政治経済学を学ぶ学生としての今後の学業、また一人の成人としての今後の人生に大いに役立つことでしょう。

春学期は基本文献の輪読ならびに共同作業、ディベート、映画鑑賞を通じてジェンダー論やフェミニズムの基礎知識を身につけます。秋学期には各自でテーマを設定し、それについてある程度まとまった分量のゼミ論文を作成します。いずれもゼミ時間以外に各自で、あるいはグループで作業を行う必要があります。

#### 教科書・使用教材：

『ジェンダー論をつかむ』千田・中西・青山著（有斐閣，2013年）1,900円＋税

#### 受講希望者に対する希望・準備学習の内容：

原則として「ジェンダー論 I」をすでに単位取得済み、あるいは2026年度春学期に履修中であることを前提にゼミを展開します。いずれも適わない場合は2026年度春学期の授業動画を各自で視聴するという条件で受講できます。春学期と秋学期いずれの作業もゼミ時間以外に各自で、あるいはグループで行う必要があります。受講生との相談によりゼミ合宿等を行う場合があります。

#### 成績評価方法：

ゼミ活動への参加および貢献度40%、課題達成度20%、ゼミ論文の評価40%

教員の研究分野…体育・スポーツ社会学、ジェンダー研究

募集人員…最大12名

募集方法…エントリーシートとレポート、面接による（応募人数によって変更の可能性あり）

政経教養セミナー投稿 2024年度 有・2025年度 有

**演習テーマ:ダンス・身体・映像**

**授業内容・授業到達目標:**

生まれてこのかた踊ったことがない、という人はまずいないでしょう。高校時代は踊っていた人も多いようです。大学に入ったのでダンスはもう卒業、と思う人、卒業するのは少し早すぎるかもしれません。まだ見たことがないダンスの世界が広がっています。「こんなことができるのか!」と驚かされるものから、「これもダンスなの」といぶかしく思うものまで多様な世界です。

このゼミの目標は、さまざまなダンスを見て、興味の幅を広げていくことです。とはいえさまざまなダンスを見尽くすことはできないので、今年は教科書で取り上げられているダンスを中心に見ていく予定です。

さらにダンサーをゲストに招いて、体を動かす予定です。昨年度は中村蓉さん(コンテンポラリーダンス)、遠田誠さん(コンテンポラリーダンス)にワークショップを開いていただきました。

**教科書・使用教材:**

『考える身体』三浦雅士著 (河出文庫 1,220円) 電子出版もあります。

**受講希望者に対する希望・準備学習の内容:**

教科書を読んでくる必要があります。本を読み慣れていない人には、ちょっと歯ごたえがある内容かも知れません。教科書の内容や、それに登場する人物や用語について調べて、発表してもらいます。

「ダンス」と言っても、普通の人知っているダンスとはかなり異なるものです。(アイドルやK-Popのダンスは出てきません。)その点を理解した上で参加してください。

また参加者全員で、各学期に各1回ずつダンスの公演を見に行く予定です。基本的には、ワークショップを開いてくださるダンサーの公演を見に行きます。

また各学期にそれぞれ少なくとも1回、自分でプロのダンスの公演を探して見に行き、さらにレポートを書いてもらいます。

**成績評価方法:**

発表内容30%、学期末レポート30%、演習への貢献度40%

また指定されたダンスの公演を見に行くのが、単位修得の条件です。ダンスの公演は週末(金曜夜、土、日)に開かれることが多いので注意して下さい。

教員の研究分野…ヘーゲルなど18,9世紀のドイツの哲学

募集人員…8名程度

募集方法…希望者が多いようであれば、自己紹介とこの演習に対して希望することを書いてもらって、それを参考に履修者を決めます。

政経教養セミナー投稿 2024年度 無・2025年度 無

演習テーマ：グローバル・ヒストリー：初期近代（16-18世紀）を中心に

授業内容・授業到達目標：

私たちが生きる現代社会の基盤形成は1492年のアメリカの「発見」から始まった。この「発見」からおよそ300年の期間(16-18世紀)は「初期近代」もしくは「近世」と呼ばれる。私たちの今日の生活のあらゆる事柄が近代を前提として成立しており、その近代の先駆けが初期近代と呼ばれる時代である。

私たちが生きる現代社会は近代の影響下にある。画一化された規格、構造、制度、組織といったものを前提とし、これをあらゆる事柄に当てはめていく荒波のようなもの、これが近代である。近代の前では、この時代が始まる遙か以前より存在してきた世界各地の文化は変容、解体、消滅といった危機にさらされてきた。現代に生きる私たちは、近代という時代のおかげで自由や平等といった価値を普遍とみなしている。しかしその一方、近代が世界各地の文化を壊し続けてきたことも事実である。

近代というコンセプトは、世界の諸地域の中でも、15世紀末のヨーロッパを母体として精緻化されてきた。この時代のヨーロッパの政治、経済、社会、文化の諸側面を理解し、ヨーロッパがその域外に広く拡散させてきた近代の諸相の理解は、現代に生きる私たちが自明とする近代を相対化するのに役立つ。

本演習では、こうした問題意識のもとで学生の発表やディスカッションを通じて、近代の意味とその地球規模の余波について考察を深め、21世紀に生きる私たちの近代との向き合い方を検討したい。

教科書・使用教材：

春学期：ウィリアム・H・マクニール『世界史』（下巻）増田義郎、佐々木昭夫訳、中央公論新社（中公文庫）2008年（9784122049673）。

秋学期：井野瀬久美恵編『「近代」とは何かー「昨日の世界・ヨーロッパ」からの問い』（講座：わたしたちの歴史総合4）かもがわ出版、2023年（9784780312645）。

受講希望者に対する希望・準備学習の内容：

世界史やグローバル・ヒストリーに関する事柄に普段から関心を持ち調べておく。

成績評価方法：

演習への貢献度(発表や質疑応答への参加など)20パーセント。アカデミック・エッセイ80パーセント。エッセイについては、とりわけ、体裁と内容、パラグラフ・ライティングができていのかどうか、授業やディスカッションの内容に加えて、専門的な観点から議論が展開されている文献(学術書や学術論文)も参照したうえでエッセイが書かれているかどうか、といった諸点を総合的に評価する。

教員の研究分野…ラテンアメリカ史、キリスト教布教史

募集人員…10名程度

募集方法…初回授業時の面談

政経教養セミナー投稿 2024年度 無・2025年度 無

演習テーマ：ケベックの「物語」研究

授業内容：

「人間は物語る動物である」といわれるように、私たちの日々の営みは「物語る／語る」という行為で成り立っているといっても過言ではありません。帰宅した子どもが学校での出来事を親に語るように、あるいは特定の経験について友人と語り合うように、「物語る」行為には、「経験を共有する」という営みがあります。経験を共有することで、人間は集団生活＝社会を形づくっているといえます。

もう少し視野を広げてみると、物語る行為はいわゆる歴史のなかに見出されるでしょう。実際、「歴史」を意味するフランス語の« histoire »には、「物語」の意味合いがあります。このことは、歴史と物語は表裏一体であり、物語が語られるものであるとすれば、歴史は物語るという行為をたらしめる人々の声の集合体であることをあらわしています。歴史とは単に年表のように線形的に並べられた事実の羅列ではなく、複数の声および物語が重層的に織りなされる情念的かつ創造的空間だといえます。歴史は事実ありきではなく、さまざまな人間関係・因果関係や文脈の中で生まれた出来事をどのように語るのかということが肝要なのです。

この授業では、人間にとっての「物語る」ことの意味を、カナダのフランス語圏であるケベックの「物語」を取り上げながら、考えていきます。前期と後期それぞれ一冊の本を読むことをとおして、ひいては歴史を物語るとはどのようなものか、歴史とは何かを自由に議論し、考察を深めていきます。毎週、学生は二人一組で一つの章を担当し、その内容をまとめたものを発表してもらう予定です。

教科書・使用教材：

ジャック・ラクルシエール『ケベックの歴史』小倉和子ほか4名訳、水声社、2023年。

ジュール・ヴェルヌ『名を捨てた家族：1837-38年ケベックの叛乱』大矢タカヤス訳、彩流社、2016年。

受講希望者に対する希望・準備学習の内容：

ケベック文化と社会に関心をもっていること。担当以外の部分も必ず読んだ上で、授業に参加すること。共同作業が必須なので、欠席・遅刻しない学生を希望します。

成績評価方法：

授業への貢献度(課題の取り組み、発言内容、発表) 70%、期末レポート 30%

教員の研究分野…ケベック文学

募集人員…10～15人程度

募集方法…初回に説明します。

政経教養セミナー投稿 2024年度 無・2025年度 無

**演習テーマ：日本近現代文学を読む**

**授業内容・授業到達目標：**

明治から現代までの短編・中編小説を読む。予定している作家は、夏目漱石、森鷗外、芥川龍之介、太宰治、内田百閒、三島由紀夫、吉行淳之介、村上春樹など。作品の時代背景、作家の生涯なども考えながら読んでゆきたい。

希望者には、小論の指導を行う。

**受講希望者に対する希望・準備学習の内容：**

作品は必ず読んでくること。感想をメモしておく。

**成績評価方法：**

授業に熱心にとり組んでいる学生を評価する。

教員の研究分野…日本の近代

募集人員…7名前後

募集方法…簡単なレポート（人数オーバーの場合のみ）

政経教養セミナー投稿 2024年度 有・2025年度 無

**演習テーマ：争わざるビブリオバトル**

**授業内容・授業到達目標：**

本ゼミの目的は、一言で言うならば「相手を言い負かすことを目的としないビブリオバトル」ということになろう。毎回の授業では、発表者がジャンルを問わず自分の感銘を受けた本、好きな本について熱く語る。それに続いて、受講者全員で様々な角度から議論を交わす。授業後に、たとえその本を読んだことがなくてもあたかも読了したかのような、またすぐにも読んでみたくなるような気持になったら、正にそれが授業の意図するところである。本ゼミはまた、今日の「コスパ」、「タイパ」などのパフォーマンス偏重の風潮、あるいは生成AI、チャットGPTなどの技術の台頭についても一考することになる。

**教科書・使用教材：**

適宜配布、または指示する

**受講希望者に対する希望・準備学習の内容：**

読書が好きなこと。常に読書から何かを学ぼうとする姿勢を持っていること。他の人の意見を傾聴、尊重すること。自分の意見・感想を積極的に述べることを厭わないこと。

**成績評価方法：**

本に対する愛情の深さ・発表の達成度・授業への積極的参加度・ゼミ論の内容などから、総合的に評価する。

教員の研究分野…言語学、キリスト教文学（特に、C.S.ルイス研究）

募集人員…10名程度

募集方法…ガイダンスの際に、各自の受講等に関する1～2分程度のスピーチを行う。（したがって、ガイダンスには必ず出席すること）その際、必ず原稿を用意すること。

政経教養セミナー投稿 2024年度 有・2025年度 有

演習テーマ：環境を考える ～ともに生きる社会のつくりかた～

授業内容・授業到達目標：

「この授業では、環境=社会と考え、自分を取り巻く環境（社会）について、さまざまな視点から考えていきます。

気候変動など環境問題が深刻化していることは周知の事実です。現状を知り、自分はどのように考え、行動をしていくのかを、対話やワークを通して探求していきます。加えて、植物を活用したクラフトや、キャンプなどの野外活動を通して、自然の美しさや神秘性に触れ、自然環境に対する総合的な理解を深めます。

また、多様性を大切にしたい社会も求められています。障害や貧困などによる差別や格差を解消し、一人一人が自分の力を発揮できる社会こそ、持続可能な発展を遂げるといわれています。「インクルーシブ」や「ユニバーサル」など、関連する概念について学習し、自分なりの理想や目標を考えていきます。特に、ろう・難聴の人たちとスポーツや野外活動を通して交流し、単に支援する・されるという関係ではなく、互いの違いを理解し、尊重しながら共に生きる感覚を体験します。そのために、彼らの言語である手話も学びます。夏休みには、ろう・難聴児を対象にした長期キャンプ（静岡県朝霧高原）にスタッフとして参加できます。

これらの活動から、環境やそれに関わる課題に関心を持ち、必要な知識・技能とともに、自分なりに取り組む意欲、実行力を身につけることを目標とします。なお、自身の身体を健康に保つため、あるいは仲間との友好を深めるために、適宜運動を取り入れます。

教科書・使用教材：

必要に応じて資料を配布します。

受講希望者に対する希望・準備学習の内容：

- ①授業内では、自身の考えや経験について受講者や教員と対話する機会が多くあります。受講するにあたり、まず自身を取り巻く「環境」について考えてみましょう。また、より深く探求するために、書籍やインターネットを活用して、関連する事柄について学びましょう。
- ②野外や運動施設で身体的な活動を実施することがあります。規則正しい生活や食事・睡眠などに気を配り、健康を維持し、活力をもって参加してください。
- ③夏休みに実施される「ろう・難聴児の長期キャンプ」にスタッフとして参加できることが望ましいです。

成績評価方法：

授業内の課題への取り組み・積極性 50%

授業到達目標の達成度・理解度（発表およびレポート） 30%

授業前後の研究（予習・復習） 20%

教員の研究分野…野外教育、インクルーシブ教育、フィギュアスケート  
募集人員…20人  
募集方法…定員を超えた場合、小論文の出来栄で選抜します。  
政経教養セミナー投稿 2024年度 無・2025年度 無

### 演習テーマ：スポーツで社会を動かす

#### 授業内容・授業到達目標：

この授業の主旨は、スポーツそのものよりも「あなた自身の考え」です。スポーツには、地域の衰退や健康問題など、社会のさまざまな困りごとを解決する大きな力が秘められています。本授業では、その可能性を自分たちの手で掘り起こし、具体的な解決策を「政策提言」として形にすることに挑戦します。

ゼミ活動の大きな目標は、グループに分かれ、10月下旬に開催予定のスポーツ政策提言のインカレコンペ (Sport Policy for Japan) への出場です。グループで現場を歩いて生の声を聴き、データを調べ、自分たちだけの政策提言を練り上げます。

この過程で一番大切にするのは、グループ内での「意見のぶつかり合い」です。価値観の違う仲間と正面から向き合い、議論を尽くして、異なる視点の一つの納得できる答えにまとめていく。その悩み、考えるプロセスが、あなたを成長させてくれるはずです。一人ではたどり着けない「最高の答え」を、仲間と一緒に作り上げていきましょう。

#### 【到達目標】

1. スポーツを「社会を良くする道具」として捉え、新しい活用法を提案できる。
2. 現場の調査やデータ収集を通じて、根拠のある解決策を考える力を身につける。
3. 仲間と意見を戦わせ、納得できる着地点を見つける「対話の力」を養う。
4. 自分のアイデアを分かりやすく伝え、周囲の心を動かすプレゼンテーションができるようになる。

#### 教科書・使用教材：

後藤光将編 (2020) 『オリンピック・パラリンピックを学ぶ』 岩波書店

高峰修編 (2020) 『夢と欲望のオリンピック その多様な姿』 成文堂

#### 受講希望者に対する希望・準備学習の内容：

水曜5限の授業だけではなく、フィールドワークなどの授業外での活動にも積極的に参加することを望みます。受講にあたって、スポーツ政策立案に関連する時事的な話題の収集に努めてください。

#### 成績評価方法：

授業への貢献度50%、授業時課題20%、発表内容30%

※1/30-2/2にスノースポーツ合宿実施予定(任意参加)

教員の研究分野…体育・スポーツ史, スポーツ人類学, オリンピック教育

募集人員…20名程度

募集方法…希望者多数の場合は、初回授業で簡単な面接を行います。

政経教養セミナー投稿 2024年度 無・2025年度 無

**演習テーマ：外国メディアから学ぶ現代世界の複合危機**

**授業内容：**

近年、地域紛争・難民問題・環境危機・排外主義が深刻化している。これらの現象には相関性がある。例えば、環境危機の激化によって生存環境が悪化し、資源が枯渇することで、紛争が起きやすくなるし、紛争が多発するようになると難民も増加するが、難民の増加はホスト国の国民の負担を増すことになるため、排外主義が強まるといったことが考えられる。現実起こっている現象は、必ずしもこのような単純な因果関係では説明できないが、幾つもの要因を介して相互に結びついていることも事実である。このことは、言い換えれば、現在世界は複合的な危機に直面しているということである。こうした問題を海外の人々はどのように考えているのだろうか。この授業では海外の新聞の論説を比較することで、現代世界の複合危機についての理解を深めるとともに、それに対してどう対応するかを考える力を養うことを目標とする。

**教科書・使用教材：**

授業では、英国の代表的なメディアの一つであるThe Guardianの論説記事を中心に、France 24, DW, Al Jazeera, Al Mayadeen, Novaia Gazeta, Efsyn, Evrenselなどの別の国々の関連する論説を読み合わせ、その内容と主張を学生同士で議論するという形で進めてゆく。扱うテキストは地域紛争・難民問題・環境危機・排外主義に関係する時々の重要な話題に関するものとし、授業の中で読むべき記事を指示する。

**受講希望者に対する希望・準備学習の内容：**

扱うテキストの多くは英語であるが、フランス語、ロシア語、トルコ語、ギリシャ語のものも扱う。これらの言語に通じている必要はないが、AIを使った翻訳方法とそれを確認するのに必要な文法的知識を備えていることが望ましい

**成績評価方法：**

授業への貢献度と出席数から総合的に判断する。

教員の研究分野…東欧・中東現代史、比較紛争学

募集人員…10名程度

募集方法…ガイダンスに出席する。希望者多数の場合は小論文を出題し、その内容で合否を判断する

政経教養セミナー投稿 2024年度 無・2025年度 無

演習テーマ : The Meiji Restoration and Meiji Constitution

授業内容・授業到達目標 :

This course will help students develop field-specific English reading and writing skills through joint readings and discussion of scholarly texts.

A main focus of this course will be on English-language discussions of the Meiji Restoration and Meiji Constitution as epochal turning points in the making of modern Japan, with a view also to the postwar “symbol monarchy.”

Readings on these topics will include passages from English-language textbooks and research publications on Meiji Japan as well as comparative analyses of “modern revolutions” and the constitution of “modern society.”

As a rule, readings assigned will be available in Japanese translation as well. Students less assured of their English reading skills may therefore consult available Japanese translations, enhancing their active vocabularies and familiarity with English expressions in this fashion. Classroom discussion, however, will be in English, and students will be required to submit English resumes on a regular basis.

Students may also choose to embark on individual study projects in the course of the academic year on subjects related to the themes of the course. You could, for example, opt to study a particular political thinker or actor more closely, or engage with a concept or issue that has sparked your interest. But this is an option, not a requirement.

教科書・使用教材 :

There is no textbook for this class. Joint readings will be distributed in class. Students who want to engage in individual study projects will learn how to find and work with library resources.

受講希望者に対する希望・準備学習の内容 :

Students are required to prepare joint readings (consulting existing Japanese translations as needed), actively participate in classroom discussion, and submit resumes (or report on individual research) in English on a regular basis.

成績評価方法 :

Class participation: 30%

Resumes or reports: 70%

教員の研究分野…History of Political Thought, History of Modern Japan

募集人員…10-12 students

募集方法…If the number of applicants is higher, students will be selected for admission through preliminary interviews

政経教養セミナー投稿 2024年度 無・2025年度 無

**演習テーマ：映像から学ぶ文化人類学の世界**

**授業内容・授業到達目標：**

人や財の国境をこえた動きが加速する一方、人間と非人間の境界さえ曖昧になりつつある今日、文化の途方もない多様性に関心を注ぎ、そこから人間存在の根源的条件に迫ろうとしてきた文化人類学の視座は、これまで以上に重要な意義をもつ。本演習では映像作品の鑑賞と参加者による討論をつうじて、人類学的視座の習得を目指す。

文化人類学の習得方法として一般的なのは、理論書・民族誌の読解やフィールドワークの実践である。映像作品の鑑賞を主題とする本授業は、あくまで実験的な試みである。人類学的理論・方法論・知識の本格的習得を望む者は、別の授業の受講も検討して欲しい。鑑賞候補作品は以下の通りである。

- ・ 人類の多様性にふれる  
『ヤノマミ』、『BBC 世界の祭・儀礼』
- ・ 真実と虚構の狭間  
『人間ピラミッド』、『全身小説家』
- ・ グローバリゼーションとは何か  
『おいしいコーヒーの真実』、『マッガビット～雨を待つ季節～』
- ・ 移民・難民とは誰か  
『海は燃えている：イタリア最南端の小さな島』、『約束の旅路』
- ・ 負債と贈与  
『ラデット』、『ペイ・フォワード：可能の王国』
- ・ 麗しき生、苛烈なる生  
『祝（ほうり）の島：原発はいらない！命の海に生きる人々』、『檀山節考』

受講者には、想像を超える映像を通じて想像力を鍛え直し、あらたな世界を構想する力を養ってほしい。

**教科書・使用教材：**

とくになし。授業を通じて紹介する。

**受講希望者に対する希望・準備学習の内容：**

毎回の授業ごとに、800～2000字程度のリアクションペーパーを提出することが必須の課題となる。また単なる感想ではなく、授業の内容をふまえて独自の思考を記すことが求められる。履修の可否の判断にあたってはくれぐれも注意すること

**成績評価方法：**

授業中の発言等30%、リアクションペーパー 40%、期末レポート 30%

教員の研究分野…文化人類学、アフリカ地域研究

募集人員…10名程度

募集方法…希望者過多の場合には抽選を検討する。

政経教養セミナー投稿 2024年度 無・2025年度 無

兼任講師 陣野 俊史 木曜2時限（通年）

担当科目：フランス語、フランス文化論

**演習テーマ：サッカーを語り尽くす**

**授業内容・授業到達目標：**

今年度は、6月にFIFAワールドカップがあるため、春学期は、ワールドカップにシフトした授業形式になる。履修者各人が、担当する国を決めて、予選の戦績や代表的な選手、監督像、あるいは、グループステージ突破の可能性など、さまざまな角度から、ワールドカップへの準備を図りたい。今大会から参加国が飛躍的に増えているため、すべての国を網羅することは難しいと思われるが、それでも重要な国はカバーしたい。資料はPDFかパワポで。

秋学期は、春学期とは一転、履修者各自の個人的な関心から「発表」する形になる。履修者はほぼ全員がサッカーに関心を寄せる者と思われるが、大きく分けて三つのタイプに分かれる(経験上)。Jリーグを中心に観ている者、海外サッカー(近年はなんといってもプレミア)を中心に時間を使っている者、そして、ほぼそうした動きとは無関係だが自分でサッカーを続けているプレイヤー。どこかに当てはまると思うが、自分以外の、ほかの領域にも関心を持つこと。意外な発見があるはず。

毎回、学生一人ひとりに意見を求める。

**教科書・使用教材：**

なし

**受講希望者に対する希望・準備学習の内容：**

特にないが、希望者が多い場合は抽選になる。

**成績評価方法：**

発表と平常点。

教員の研究分野…フランス文化論

募集人員…20名程度

募集方法…

政経教養セミナー投稿 2024年度 無・2025年度 無

演習テーマ：プレゼンテーションで世界を変える！～ TEDの世界～

授業内容・授業到達目標：

プレゼンテーション・スキルは、在学中にも、また社会に出てからも、現代では必須の能力だと言えます。今や実社会では、その能力が一生を決定すると言ってよいほど重要な資質にさえなっています。

この演習では、TED で公開されている世界的なプレゼンテーションの分析と学習を通じて、各自のプレゼンテーション・スキルの向上をはかるとともに、超一流のプレゼンテーションによって表現されている最先端の科学から、芸術や人生の意味に至るまで、その内容についても理解を深めたいと思います。

TED (Technology, Entertainment, Design) は、毎年一回開催される大規模な世界大会のほかに、各地でも活発なプレゼンテーションの会が開かれて、その模様をインターネット上に公開している非営利団体です。

TED のステージには、ビル・ゲイツやアル・ゴアなどの著名な人物のほか、文化、芸術、科学、エンターテインメントなど、あらゆる分野から「超一流」のプレゼンターが登場し、10分から20分のプレゼンテーションを行います。聴衆も、ジャーナリストから学術関係者まで極めて高いレベルの人々ばかりですので、TED の会場で聴衆を引き付けることは、至難の業だとも言われています。そのため TED のプレゼンテーションは、どれも非常に説得力があり、「世界を変える」ほどのインパクトを持つものさえあります。

授業では、毎回、各担当者が予め TED のサイトから選んでおいたプレゼンテーションの内容を解説することにより、自分自身のプレゼンテーション能力の向上を図ります。

【参考 URL】

ホームページ：<http://shibasaki.fine.to/ted>

教科書・使用教材：

使用しません。

受講希望者に対する希望・準備学習の内容：

PCがなくても授業の準備は可能ですが、所有していないと何かと不便です。出来るだけ自分専用のPCを準備するようにしましょう。初回の授業で、ビデオのダウンロード方法、字幕の加工方法などを解説します。

成績評価方法：

1年間の最後に、期末レポートを課します。授業時でのプレゼンテーション60%、ディスカッションの貢献度30%、レポート10%の割合で評価します。

教員の研究分野…環境思想・科学技術社会論・応用倫理学

募集人員…10名

募集方法…Oh-o! Meijiのクラスウェブに掲示されている「エントリーフォーム」に必要な事項を入力してください。入力には、クラスウェブ上で、この授業を「仮登録」することが必要です。締め切りはガイダンス当日の午後5時です。

新1年生でOh-o! Meijiの利用方法がよく分からない場合は、「志望動機」(300字程度)と「自己PR」(200字程度)を予め考えておくと、後の入力が容易です。エントリー方法はガイダンスで説明します。

政経教養セミナー投稿 2024年度 有・2025年度 有

演習テーマ:ドイツ——生活と文化、歴史

授業内容・授業到達目標:

第二次世界大戦後に二つに分かれた東西ドイツが1990年に再統一を果たしてから、ドイツは政治的にも経済的にもEUヨーロッパ連合を主導する国の一つとなった。文化的には、作曲家バッハやベートーベン、哲学者のカント、作家ゲーテ、ハイネらを輩出し、日本でも明治以来なじみのある国の一つであった。このドイツが近代的な国民国家となったのは比較的遅く19世紀後半のことである。しかし、それ以前にはオーストリアや北イタリアを含み、古代西ローマ帝国の後裔「神聖ローマ帝国」を自称し、千年近くにもわたってヨーロッパの大国であり続けた。現在のドイツは政治や経済だけでなく環境先進国、観光立国、スポーツ大国など様々な面を持っている。このゼミでは、できるだけ広い視点からドイツという国にアプローチしたい。

春学期ではドイツという国をよりよく理解するためにドイツに関する入門書を何冊か読み、秋学期は参加者それぞれが自由にテーマを選んで研究成果を発表し、これをもとにゼミ論文集「政経教養セミナー」への執筆を目指す。また少人数授業の特色を活かし、プレゼンを通して必要な資料検索やレジユメの作成、引用の仕方など、論文やレポート執筆の際の基礎的な知識も習得する。

教科書・使用教材:

未定。使用するテキスト(ドイツの生活・文化・歴史関連書)はガイダンスと授業の中でお知らせする。

受講希望者に対する希望・準備学習の内容:

ドイツ語の知識は必要としないが、何らかの意味でドイツ(ドイツ語圏)に興味を持った学生の履修を期待する。ゼミは学生主体の参加型の授業であり、自分の発表の際にはパワポやレジユメ、資料の事前準備が必要となる。聞き手の側も質問や感想など積極的な関与が望まれる。

成績評価方法:

授業への貢献度(担当発表を含む)70%、授業課題30%を目安に総合的に判断する。

教員の研究分野…ドイツ文学(主にドイツ語圏スイス)

募集人員…15名程度

募集方法…最初のガイダンスで決定する。

政経教養セミナー投稿 2024年度 無・2025年度 無

教授 海野 素央 木曜2時限(通年)

担当科目：異文化理解とコミュニケーション、異文化摩擦とコミュニケーション、  
異文化ビジネス概論、実践異文化ビジネス論、専門演習

演習テーマ：ドナルド・トランプ米大統領のリーダーシップスタイルとコミュニケーションスタイル

授業内容・授業到達目標：

近年、国際化の著しい進展に伴う日本企業の海外進出および外資系企業の日本進出によって、文化的背景の異なる人々と協働したり、そうした人々を管理する、あるいは、彼らの下で仕事をする機会が増加している。こうしたビジネス環境の変化に、従来のリーダーシップ論では対応しきれない事態が生じてきている。21世紀に、グローバルな舞台で管理者を目指す学生諸君には、今、新しいリーダーシップが求められている。

本ゼミでは、異文化環境におけるリーダーシップを研究テーマとして取り上げ、学生諸君が、新しいリーダーシップつまり講師が提示している異文化対応型リーダーシップを理解し、そのKSAA(知識・スキル・態度・能力)の基礎を習得することを目的として、事例、小グループごとのディスカッション、チームプロジェクト、シミュレーション(疑似体験)、プレゼンテーションを中心に進めていく。年2回、ディベート大会も実施している。その意味では、極めて実践的な演習である。

教科書・使用教材：

海野素央(2013)『オバマ再選の内幕—オバマ陣営を支えた日本人が語る選挙戦略』、海野素央(2011)『リスクと回復力—東京電力福島第一原発事故から学ぶリーダーシップ』、海野素央(2011)『トヨタ公聴会から学ぶ異文化コミュニケーション』(いずれも同友館) L.A. サモバー、R.E. ポーター、N.C. ジェイン著 西田司他訳(1993)『異文化間コミュニケーション入門』、W.B. グディカンスト著 ICC 研究会訳(1993)『異文化に橋を架ける—効果的なコミュニケーション』(いずれも聖文社)

受講希望者に対する希望・準備学習の内容：

モチベーションの高い学生を求む。

成績評価方法：

プレゼンテーション、試験、Discussion Question、レポート、授業態度

教員の研究分野…「ドナルド・トランプ米大統領のリーダーシップスタイルとコミュニケーションスタイル」

募集人員…7～8名

募集方法…レポート：テーマ「国際人とは」。1000字程度。横書き。名前、学年、組、番号、出身地を明記。身上書(ガイダンスで配布)。

政経教養セミナー投稿 2024年度 無・2025年度 無

特任講師 デヴェラ, ローナヴェリア 水曜3時限(通年)  
担当科目: ACE, 留学基礎講座, 留学準備講座, 海外留学演習

演習テーマ: Japanese Culture in English for Cross-Cultural Exchanges  
～国際異文化交流に向けて英語で日本文化を語る～

授業内容・授業到達目標:

This Kyoyo Enshu seminar gives Seikei students the opportunity to study Japanese culture in English. It draws on experiences from university courses taught in English and from real cross-cultural exchanges between Japanese and international students. In many of these situations, it was observed that students were unsure how to respond when asked about Japanese culture or current events, showing a clear need for English support for deeper cultural discussion that builds confidence and helps them express their ideas more smoothly.

With this in mind, the seminar is designed to help you grow into a confident communicator who can proudly share Japanese culture with people from around the world. It pursues two main goals. First, it aims to equip you with the ability to speak comfortably in English about your own culture and current events in Japan. Second, it seeks to deepen your understanding of Japanese traditions, values, and contemporary issues, enabling you to apply this knowledge in international settings, study-abroad programs, and cross-cultural exchanges.

Throughout the seminar, you will practice having more meaningful conversations on a range of topics as we explore different aspects of Japanese culture and discuss how they relate to your own experiences, feelings, and ideas. Topics include school life and education in Japan; social issues; traditions and customs such as New Year celebrations and festivals; food culture; popular culture like music and fashion; and deeper cultural concepts such as wabi-sabi, honne-tatema, and sempai-kohai. Through these discussions, you will learn how to explain everyday life in Japan to English speakers while expressing your values and beliefs, and you will also gain new ideas and insights.

As you develop cultural awareness, communication skills, and critical thinking, you'll also learn how to introduce and present Japanese culture in engaging and meaningful ways. You'll have opportunities to participate in related activities such as sightseeing excursions, study tours, and cultural exchanges with international visitors. In addition, guest speakers from both Japan and abroad may be invited to share real-life stories and diverse perspectives, enriching your understanding. These will allow you to reflect on and compare Japanese ways of thinking with those of other cultures.

教科書・使用教材:

There is no assigned textbook for this seminar. Handouts will also be given out in the course of the semester.

受講希望者に対する希望:

This course invites curious, open-minded learners eager to challenge themselves by exploring Japanese culture from new perspectives while enhancing their English communication skills and becoming culturally aware and internationally minded Japanese. It is ideal for students who enjoy sharing their own culture with individuals from different countries and are interested in participating in international or cross-cultural exchange, or who are seriously preparing for study abroad.

This seminar counts as credit for the ACE Program, so classes and activities will be conducted in English. Students need to have a level sufficient enough to follow discussions and class content. Japanese will be used only for explanations of specific terms or cultural references.

You are expected to attend with the same level of commitment and active participation as other regular classes. Having a positive and cooperative attitude is important, as many tasks involve working with classmates, exchanging ideas, and supporting one another. You should feel comfortable speaking up, asking questions, and proactively contributing to a friendly and collaborative learning environment.

成績評価方法:

Attendance and class participation (30%), contribution to activities and in-class discussions (50%), written assignments, presentations, and homework (20%)

※ The seminar counts as 2 credit units toward fulfilling ACE Program completion requirements.

教員の研究分野...Foreign language education, Japanese language and culture, communication

募集人員...8～9名程度

募集方法...できれば TOEIC 520点以上、ACE科目、留学講座、およびトップスクールセミナーを少なくとも履修登録していることが望ましいです。事前に課題を提出していただきます。初回授業には、TOEICスコア、ACEエントリーシートなど必要な提出書類を持参してください。当日ガイダンスを実施し、課題提出、英語力およびディスカッションへの参加能力に基づいて、動機を確認のうえ、ゼミ参加を決定します。希望者が定員を超える場合は、追加の個人面接により選考します。

政経教養セミナー投稿 2024年度 有・2025年度 無

演習テーマ：夏目漱石と村上春樹を読む

授業内容：

近代と現代をそれぞれ代表する作家・夏目漱石と村上春樹の作品を読解する。

高浜虚子に誘われて英文学者・夏目金之助が気楽な気持ちで「吾輩は猫である」を書いたのは、いまから100年以上前のことである。これは作家・漱石誕生の契機となる意味深い出来事だが、その後朝日新聞社専属の職業作家になった漱石は、「明暗」執筆中の大正5年に病死するまでのわずか十数年の間に、「坊っちゃん」や「三四郎」、「それから」といった、こんにち名作の名で呼ばれる小説をつぎつぎと発表した。これらの作品のなかで漱石は親子や兄弟、夫婦といった人と人との関係を繰り返し描いたが、それは現代の私たちが人と結ぶ関係やそこに胚胎される問題となお、深く接続しているといつてよい。

1979年の群像新人文学賞受賞作『風の歌を聴け』でデビューした村上春樹は、これまでに多くの読者を獲得してきた。彼の小説のなかの断片的な物事やさりげなく写しとられただけに見える場面は、注意してみると、実は作品のテーマそのものに深く結び付く重要な鍵である場合が少なくない。

このような彼らの小説はどのようにすれば、より深く読むことができるだろうか。このゼミではこれらの小説を分析的に読むことにより、夏目漱石と村上春樹の作品世界の再構築を試みたい。

ゼミ員は各自、担当した箇所についての研究成果をレジュメにまとめようとして口頭発表し、全員で討論をしながら相互に理解を深める。つぎのような小説を研究対象とする。

夏目漱石：『坊っちゃん』明39 『三四郎』明41 『それから』明42 『こころ』大3(すべて新潮文庫)

村上春樹：『風の歌を聴け』1979(講談社文庫)『虫・納屋を焼く・その他の短編』(全5編)1984(新潮文庫)『世界の終りとハードボイルド・ワンダーランド』(上・下)1985(新潮文庫)『ノルウェイの森』(上・下)1987(講談社文庫)

以上の小説を通読すること、口頭発表・質問・討論についての基本的な技術を身につけることを到達目標とする。

教科書・使用教材：

上記の計10冊

受講希望者に対する希望・準備学習の内容：

積極的に発言できる学生を歓迎する。また他のゼミ員に迷惑をかけないように、とくに発表者と司会者は無断欠席などをしないように心がけてほしい。ディスカッションの準備として、事前に当該作品を通読しておく必要がある。

成績評価方法：

発表(40%)、司会(10%)、授業への参加度(50%)

教員の研究分野…近代日本の文学・文化

募集人員…10名程度

募集方法…初回の授業時に決定

政経教養セミナー投稿 2024年度 無・2025年度 無

演習テーマ：「文系の環境問題スペシャリスト養成」講座

授業内容：

環境エコノミスト、環境ジャーナリスト、環境コンサルタント、環境行政官、環境政治家など、環境問題の解決を目指すスペシャリストになるために必要と思われる基本的な文献や映像などを批判的に読み解くための知的なトレーニングの場を提供したい。

受講者には、環境問題に関連する初歩的な文献や映像などを年間5作品程度読み込み、レポート(書評や映評)を3本程度書き、パワーポイントを用いて発表し、提出してもらいます。

演習指導教員は、文献や映像を案内し、発表についての受講者相互の議論を活性化し、レポートを添削します。可能なら、秋学期はグループ研究を行います。

テキストは、以下のカテゴリから受講者が自由に選択することになりますが、ここに挙げていない文献や映像なども追加で案内します。

1. 環境問題の歴史を学ぶ(日本編)：石牟礼道子『苦海浄土』他
2. 環境問題の歴史を学ぶ(海外編)：レイチェル・カーソン『沈黙の春』他
3. 環境経済学を学ぶ：植田和弘『環境経済学への招待』他
4. 環境政治学を学ぶ：松下和夫『環境政治入門』他
5. 映画で学ぶ環境問題：『エレン・ブロコビッチ』(テーマ：土壌汚染)／『シビルアクション』(テーマ：公害訴訟)他
6. 環境技術展の見学：「エコプロダクツ展」・「省エネルギー展」／自然エネルギー施設見学  
なお、専門演習(3,4年ゼミ)で行っている養蜂プロジェクト(千代田区の蜜源植物の調査)に参加できます。

授業到達目標：

適切にレポートが書け、研究発表ができる能力を身につけること。共同論文の作成。

教科書・使用教材：

教科書はなし。参考文献多数。

受講希望者に対する希望：

環境問題への高い関心と出席する意欲。

準備学習の内容：

指定された文献・資料を読んでおくこと。

成績評価方法：

授業への出席と積極性(50%)、レポート内容(50%)

教員の研究分野…環境経済学・環境政策学・釣りと流域環境保全・養蜂と環境  
募集人員…10名程度  
募集方法…「環境問題への関心の深さを問う」面接(初回の授業時)  
政経教養セミナー投稿 2024年度 有・2025年度 無

特任教授 アベシンヘ ムディヤンセラゲ, ニロス チャミンダ 木曜3時限 (通年)

担当科目 : Asian politics, Politics of South Asia, Indian Ocean Politics, History of Political Thoughts,  
Historical Development of International Relations

---

演習テーマ : Changing Power Dynamics of Asian Politics

授業内容・授業到達目標 :

This course examines the evolving significance of Asian politics in the international system, focusing on how historical, geopolitical, and economic factors have shaped the region's current power dynamics. Asia's rise as a global powerhouse has not only shifted the balance of power but has also established the region as a focal point for international cooperation and competition. Students will explore the roles of key actors such as China, India, Japan, South Korea and regional organizations, agencies and alliances while critically analyzing the influence of external powers like the United States and its allies.

Through this course, students will gain insights into the region's strategic importance, particularly in the context of power dynamics, economic integration, security alliances, and political transformations. By reviewing literature and engaging in discussions, students will understand how Asia's internal and external dynamics contribute to its prominence in shaping global power structures. This course will prepare students to analyze complex political trends and their implications for the future of international relations. Simultaneously, students will enhance their English proficiency by engaging with English texts, developing their presentation and leadership skills through class activities and discussions.

Themes for the individual study and joint readings can be selected from the theoretical and empirical literature available on Asian politics.

教科書・使用教材 :

Asia Rising - A Handbook of History and International

Relations in East, South and Southeast Asia, Sahashi et al, 2024, Springer, Tokyo

受講希望者に対する希望・準備学習の内容 :

Selected students are required to go through the assigned texts individually as well as jointly. All students should actively engage in class discussion during the entire academic year/semester. Moreover, students will be given individual and group presentations based on the reading materials and their research interests. Students anticipating composing a dissertation/ research paper must do the progress presentation and submit a research paper at the end of the academic year.

成績評価方法 :

Class Participation: 40%

Literature review (reading text): 30%

Individual Presentations: 30%

教員の研究分野…Asian Politics, Politics of South Asia, Indian Ocean Politics

募集人員…Up to 20 students

募集方法…If the number of applicants is higher than 20, students will be selected for admission through a preliminary interview

政経教養セミナー投稿 2024年度 有・2025年度 有

演習テーマ：英語原文と翻訳の双方で文学作品の「精読」の楽しみを学ぶ

授業内容・授業到達目標：

※目的

本演習では、和訳を参考にしながら、ジェイムズ・ジョイスの短篇集『ダブリナーズ』(1914年)を原文で精読し、文学作品を楽しんで読み解く力を身につける(皆さんに馴染みの言葉で表すならば、「考察」の方法を学ぶ、とも言えるでしょうか)。また、作品の歴史・社会・文化的背景について資料検索する方法を学び、リサーチ・ペーパーおよび口頭のプレゼンテーションにおいて、日本語で作品分析の成果を文章にまとめ、表現できるようになる。

※内容(上記の目的のために、次のことを行う)

- 1.【読解】『ダブリナーズ』を、既訳を参考にしながら英語原文で精読し、英語で文学作品を読むことの〈楽しみ〉を学ぶ
- 2.【リサーチ・発表】作品の背景にある文化や歴史に関するリサーチを各自行い、個人またはグループでの発表を行う。
- 3.【分析・論文化】文学作品を分析したレポートを完成させる(各学期2000字程度)。

※ただし、上記の内容は、受講者の関心や希望によって変更の可能性あり

※到達目標

- 物語の中心的な出来事と鍵語との関連を説明することができる
- 登場人物の人物造形を、当時の社会的コンテクストから分析できる
- 作者と語り手の差異に着目することができる
- 作品の歴史・社会・文化的背景について日本語で資料検索する方法を学ぶ
- 比較的簡易な文学用語を使い、分析した結果をペーパーに日本語でまとめることができる

教科書・使用教材：

授業中に適宜指示する。

受講希望者に対する希望・準備学習の内容：

各学期にそれぞれ1回、発表をお願いする。受講生全員が、その際に扱う短篇を、少なくとも日本語訳で事前に読んでくる、という「準備」を怠らないこと。皆さんの「準備」という名の「貢献」が、ディスカッションの盛り上がりを決めます!演習が楽しくなるかどうかは皆さん次第なので、この点どうぞよろしくお願いします。また、事前事後学習のフィードバックは講義内で行い、個別でもメールなどで回答する。

成績評価方法：

- 授業参加・貢献度 40%
- プレゼンテーション 30%
- 最終レポート 30%

教員の研究分野…英文学(ジェイムズ・ジョイスを中心としたアイルランド文学)

募集人員…5～15名程度

募集方法…初回授業時に簡単なエッセイを書いてもらい、これによって判断する。

政経教養セミナー投稿 2024年度 無・2025年度 無

**演習テーマ：理論と実践から自身の体を知る**

**授業内容・授業到達目標：**

健康の維持・増進や体力向上のためには、正しい知識を身に付け、日々継続して運動を行う必要があります。しかしながら、20歳代の週1回以上の運動実施率は男性で約54%、女性で44%と高いとは言えません。また、運動が健康に良いことは誰でも知っていますが、運動を行うと身体ではどのような適応が起きるのか、どのような運動をどのように行うのが効果的か十分に理解されていません。

本授業では、スポーツ科学的視点(運動生理学、スポーツ医学、運動栄養学、トレーニング学等)から運動・トレーニングを理解し、自分の嗜好や目的にあった運動処方確立する授業です。春学期はBig3を中心とするレジスタンストレーニング(筋トレ)の正しい方法について理解・実践することで身体の適応についてみなさん自身で実感してもらいます。秋学期は持久性トレーニングが中心となり、最大酸素摂取量や自身の筋線維割合の推定などを行います。理論ではスポーツ科学に関する書籍の輪読会を行い、最新の知見を理解すると共に自身の生活・トレーニングに取り入れることを目指します。一年を通して皆さんの身体について学び、将来的に自分で考え運動を実践できることが目標になっています。

**教科書・使用教材：**

石井直方の筋肉の科学2.0(ベースボールマガジン社)…全員に購入してもらいます  
また、追加資料を指示・配布することがあります。

**受講希望者に対する希望・準備学習の内容：**

春学期と秋学期を通して授業への出席が前提となります。

普段から積極的に運動・トレーニングを行うことを推奨します。この授業では強度の高い筋トレやランニング等激しい運動を行いますので注意してください。毎回教科書の予習が前提となることを理解した上で受講してください。トレーニングウェア、運動靴(体育館用)、シューズケース等は各自で準備してください。

**成績評価方法：**

授業への取り組み度合い30%、授業内での発表30%、レポート・提出物40%

教員の研究分野…運動生理学

募集人員…12名程度

募集方法…希望者多数の場合は、初回授業時にスポーツ科学に関するレポート課題を課します。

政経教養セミナー投稿 2024年度 無・2025年度 無

演習テーマ：Economic Affairs (経済事情)

授業内容・授業到達目標：

この演習は、経済(経済学)入門として位置づけられ、今日の経済社会において、私達が責任ある市民として生活し、それぞれの分野で自分の役割を果たしていくために必要な経済の知識を身につけるとともに、現実にはどのような問題が起こっているのか理解していくことを目的としています。

この演習においては、日常的に関心を持って経済ニュースを集め、毎週、現実経済の中から自分が特に重要だと考える経済時事問題を取り上げて発表してもらい、少人数のグループに分かれて討論していきます。また、春学期と秋学期の後半には、より深く掘り下げてみたいテーマを選んで共同研究を行い、その成果を発表します。(※ゼミ生の希望に応じて内容変更の可能性あり。過去には、「ディベート」、「経済実験」、「経済系ボードゲーム」等を実施。)

最終的には、受講生全員が、代表的な経済情報紙である「日本経済新聞」を読みこなし、それらの情報を批判的に検討し、自らの考えを展開できるようになることを目標としています。また、経済(経済学)の楽しさ、面白さを実感しながら、大学で学ぶために必要な基本的スキルを磨くことも目標の一つとして考えています。

教科書・使用教材：

(教科書)『ネットニュースではわからない本当の日本経済入門』伊藤元重【著】、東洋経済新報社(2021年)

(使用教材)日本経済新聞

※その他、必要に応じて経済入門書や参考文献を提示いたします。

受講希望者に対する希望・準備学習の内容：

「経済」と聞くと難しいイメージを持つかもしれませんが、「経済」というのは、決して本の中だけの議論ではなく、私達が日常行っている活動の集まりであり、「現実の生活」そのものです。ですから、私達が「経済」について知るということは、人々がどう考え、行動し、世界全体としてどのように機能しているのかを知ることだと言えます。それによって、私達は、経済・社会が将来どのような方向に向かって進んでいくのかということを見通す力(洞察力)を養うことができるのです。そのため、演習では、様々な問題に関心を持って何事にも積極的に取り組む姿勢が求められます。このゼミで何を学ばれるかは、皆さんの努力にかかっているといえます。

(準備学習の内容)

受講生には、毎日、「日本経済新聞」を読んで経済情報を集め、現実経済の動きを追いかけてもらいます。また、毎週、その中から自分がとくに重要だと考える経済時事問題を取り上げて、その問題についての自分の意見(自分はどのように考えたのか)を準備する必要があります。

成績評価方法：

演習への貢献度50%、演習課題(授業時発表を含む)30%、目標到達度評価20%

教員の研究分野…グローバル経済の分析と経済政策、経済成長理論と経済成長政策  
募集人員…15～20名程度  
募集方法…初回ガイダンス時に配布する身上書の提出による書類選考  
政経教養セミナー投稿 2024年度 無・2025年度 無

**演習テーマ：経済指標の what and so what**

**授業内容：**

貿易収支、消費支出、物価指数、設備稼働率、株価指数・・・世の中には数えきれないほどの経済指標が溢れています。それぞれの経済指標がどのような物であるかは、Google先生(あるいはチャッピー)が一発で教えてくれますし、政府統計もインターネット上で簡単に入手できる物が増えてきています。しかし、直近にある経済指標がこのように動きましたと言われて、「へえーそうなんだ」で終わると、「それってつまりどういうこと?」「どうしてそうなったの?」と考えるのとでは、大きく違うことは言うまでもありません。

当該演習では春学期に経済指標の「それって何?」「その指標が上昇・下落したというのはつまりどういうこと?」にフォーカスし、経済指標がどのような物であるかだけでなく、その動きが何を意味・示唆しているのかについて学びます。秋学期は「どうしてそうなったの?」に注目し、経済指標の動きの背後にある原因を探るための分析手法について学習します。

**授業到達目標：**

通年での演習を通じ、身の回りに溢れている経済指標に関する初歩的な理解だけでなく、それが示唆することや、その背後にある「何故?」を分析するのに必要な初歩的な手法に関する理解を身に付けることを目指します。これは同時に、その先として、実際に指標が示唆することについて考えあるいは議論し、自ら手を動かして分析することを期待するものでもあります。

**教科書・使用教材：**

春学期：コンスタブル、サイモン、ロバート・E・ライト著、上野泰也(監訳)・高橋璃子(翻訳)(2012)『ウォールストリート・ジャーナル式 経済指標 読み方のルール』かんき出版

秋学期：松浦寿幸著(2012)『独習! ビジネス統計』東京図書

**受講希望者に対する希望・準備学習の内容：**

春学期は上記の教材を履修者で分担し、事前に読み込んだ上で内容をスライド資料としてまとめ、演習時間内で発表してもらいます。秋学期は春学期同様の発表に加え、演習時間内で実際にExcelの操作を行います。そのため、事前の教材の精読と資料作成、最低限度のExcelの操作スキルが欠かせない。

**成績評価方法：**

講義への貢献：30%、発表内容：50%、他の学生の発表に対するコメントや発言、その基づく議論など：20%の比重で、明治大学の評価・評点基準に沿って成績評価を行う。

教員の研究分野…国際経済学、国際貿易

募集人員…13名程度

募集方法…多数の応募があった場合は初回の演習時間内で簡単な面談による選抜を行う

政経教養セミナー投稿 2024年度 無・2025年度 無

**演習テーマ：人口とライフコースの変化から見る未来社会**

**授業内容・授業到達目標：**

現在日本は世界に先駆けて人口減少、少子高齢化がもたらす社会経済の歴史的転換に直面しています。すでに多くの地域社会は存続が危ぶまれており、その先には日本社会そのものの持続可能性が問われています。

実際、人口変化の社会経済に与える影響は根深く、たとえば人口高齢化により有権者構成が変化して国の政策が高齢者寄りになったり、消費市場では子ども・若者層向けの製品やサービスが縮小するなど、政治面でも経済面でも若者や子育て世代が不利になるおそれがあります。すると少子化がさらに進行し、人口減少、高齢化がいつそう深刻化するという悪循環が生じてしまいます。つまり、民主主義(政治)や市場原理(経済)といった、これまで社会の繁栄を支えてきた基本理念そのものが、この悪循環に加担する仕組みとなっているのです。こうした社会基盤の揺らぎは、地球環境問題と同様に産業革命以来発展してきた現代文明の行き詰まりを示しており、私たちはまったく新しい社会システムを再構築する必要に迫られています。

本演習では、今後世界のすべての人々を巻き込むこれらの社会経済変動を題材としつつ、問題の本質を科学的に把握し考察するための基本スキル(統計、データサイエンス)や思考力を養います。具体的には、独自の問題意識の形成、分析・考察、論文作成、討論、口頭発表などの技術を習得します。これらは今後の大学生活や卒業後の職業活動に必須のスキルです。

**教科書・使用教材：**

教科書は使用せず、随時、資料を配付(Oh-o! MeijiシステムによるPDF、EXCEL形式等のファイルの配布)

**受講希望者に対する希望・準備学習の内容：**

人口、社会、未来に対する関心

**成績評価方法：**

学期末レポート 50%、演習への貢献度(出席、発言、発表等) 50%

教員の研究分野…人口学、人口統計学、データ科学

募集人員…14名以内

募集方法…初回授業参加(必須)。希望多数の際はアンケートによる選考を行う。

政経教養セミナー投稿 2024年度 無・2025年度 無

**演習テーマ：ベンチャー・中小企業経営研究**

**授業内容・授業到達目標：**

ベンチャー・中小企業による産業の苗床機能の発揮が、先進諸国や発展途上国で期待されている。なぜなら今日のホンダやソニーも、創業当初は小さな町工場からスタートし、一大産業を築いたからである。また経済活動のグローバル化、サービス化、AI/IoT・DX化など、企業を取り巻く経済環境は変化し続けている。したがって経済学を学ぶための前提条件として、①個々の企業活動に対する強い関心を持つ、②企業の経営実態を十分に観察する眼力を身につける必要がある。

第1にベンチャー・中小企業の実態と今日の大企業が中小企業から大企業に成長・発展してきたプロセスについて、文献、白書などを通じて研究し、その内容に関する研究発表を行う。第2に映像を用いて、経営者のコメントや企業活動の現場紹介から経営の実態を学び、それに基づくレポート作成を行う。なお映像教材の内容は、中小企業の連携・組織化活動、ベンチャー・中小企業の経営者像、創業・新事業創造から大企業に至ったプロセスなどとする。第3に課外授業として、工場や物流センターなどの現場視察を行う。最後にこれら一連の研究活動を通じて、各自、ベンチャー・中小企業を研究対象としたケーススタディによる論文を作成する。

**教科書・使用教材：**

『持続可能社会を築く中小企業経営』森下正・竜浩一著、八千代出版、2025年

『空洞化する都市型製造業集積の未来』森下正著、同友館、2008年

『中小企業白書2025年版』中小企業庁編、日経印刷、2025年

**受講希望者に対する希望・準備学習の内容：**

受講にあたり経済学の基礎知識として「マクロ・ミクロ経済学」を、テクノロジーの変遷に関する知識として「科学史」を、文章表現能力を養うために「国語表現」「日本文学」を受講することをお勧めする。また経済活動の実態に興味があり、無遅刻無欠勤で最後までやり抜く強い意志のある者の受講を望む。また、授業前の発表用資料の準備を怠らずに実践してほしい。

**成績評価方法：**

論文作成30点+課題レポート30点+課題発表20点+現地視察レポート20点=100点

教員の研究分野…中小企業（ベンチャー）論、地域産業論、工業政策

募集人員…15名程度

募集方法…筆記試験（ベンチャー・中小企業・地域産業に関する時事問題に関する作文）

政経教養セミナー投稿 2024年度 無・2025年度 無

演習テーマ：体力・運動能力・健康度を探る

授業内容：

本演習の目的は、様々な運動・スポーツの実践、日常ではあまり触れることのできない機器を使用した体力測定の実施などを通して、自身の体力、運動能力、健康度について客観的に評価できる能力を養うことである。

春学期は、「和泉総合体育館・サブホール」において、いろいろな運動・スポーツを実践し、それを通して自身の体力についての現状を認識すること、およびゼミ員相互の親睦を深めることを主たる目的とする。

秋学期は「和泉総合体育館・フィットネスルーム」で、自分の「体力」を測定、評価し、その評価から自分に対するトレーニング処方を作成(目標決定、それを達成させるためのトレーニング方法の選択)できる能力を養うことを主たる目的とする。

春季休暇中(2月下旬または3月上旬を予定)には、ゼミ合宿(スノースポーツ合宿・参加必須)を実施し、ゼミのまとめを行う。

到達目標：

受講生は、様々な運動・スポーツの実践を通して、自身の体力、運動能力、健康度について客観的に評価できるようになる。また運動・スポーツを通して、ゼミ員が積極的にコミュニケーションを取り合い、日常生活にも活用することができるようになる。

教科書・使用教材：

特になし。

受講希望者に対する希望：

本演習の受講を希望する者は、単に「運動・スポーツ好き」に止まらず、自分の身体や体力、運動能力について興味があることを大前提とする。また、授業は休まず、他人任せにせず、自主的・積極的に行動できる学生の入室を希望する。

授業の準備学習：

毎回、体育館内で運動・スポーツを実施するため、運動に適した服装(ジャージ等)・靴(体育館シューズ)、シューズケース(外靴収納用)など、最低限必要な準備を怠らないこと。また、自己の健康管理を行い、授業参加に支障がないよう努めること。

成績評価方法：

- 一般学生                   ：① 演習への貢献度(70%)  
                                  ② ゼミ合宿参加状況(30%)  
スポーツ推薦入学者：① 課題への取り組み・提出状況(50%)  
                                  ② 約束事項遵守状況(50%)

教員の研究分野…運動生理学、運動生化学、体力学

募集人員…①4月初回の授業欠席者は、一般学生・スポーツ推薦入学者共に履修を許可しない。

②一般学生は、1年生:10～15名、2年生:10～15名、合計20～30名の予定。

③スポーツ推薦入学者は、一般学生と別枠で受け入れる予定。但し、覇気がなく目的意識のない者、約束事項を守れない者には単位を認定しない。

募集方法…4月初回授業で「ゼミ実施要項」を配付し、入室希望の一般学生には「入室希望調書」を記入・提出してもらおう。正式な受講予定者は「入室希望調書」の内容を精査して決定し、発表する。発表の方法は、初回授業時に連絡する。

一般学生で入室が決定した場合、履修キャンセルは遠慮してもらいたい。また、ゼミ合宿に参加できることを前提とする。

スポーツ推薦の学生は、入室の決定後にウェブ履修登録での「本登録」を必ず行うこと。手続き不備で入室できなくなった場合は、全て自己責任とする。

政経教養セミナー投稿   2024年度 無・2025年度 無

**演習テーマ：町づくりを考えてみよう**

**授業内容・授業到達目標：**

人は互いに支えあって生きているという見地から自分と社会の関わりを考え、各自の将来のフィールドで主体性を持ち能動的に提案・行動できるような姿勢を学びます。日本のグローバル化に伴う合理化によって、日本の原風景とともに日本人の心が失われつつある今日、行政や行政区画とは関係なく存在してきた伝統的・歴史的な文化や風習を守り、住みよい地域社会を実現するためには何ができるかという問題を考えます。地域に根ざす風土は地域のアイデンティティーとも言えますが、それは、伝統的・歴史的な文化に裏打ちされた、地域を支える精神となっていることが少なくありません。しかし、経済効果を優先した一極集中型の大都市の肥大化により、これらの地域は大都市に融合し、その一部としての機能を持つようになります。それは「発展」という言葉で包括されることですが、その地域の持つ美しい個性、伝統、地域の文化に根ざした産業、町の美しい景観までもが失われ、人々の守り伝えてきた精神性も失われてきたと言えるでしょう。これらはグローバリズムがもたらした悲劇です。この面に焦点を当て、町づくりという観点から空間のデザイン、地域と地域住民を繋ぐ精神的アイデンティティー、地域の求心力となるものの重要性を考え、自らが所属している地域や好きな街の特色、行政、NPO活動などに目を向け発表してもらいます。そして理論から実際の現実へと目を向け、次世代を築く責任が自らにもあるという姿勢を忘れずに前向きに日本の未来の社会のあり方を考えていきましょう。

**教科書・使用教材：**

必要に応じてプリントを配布します。

**受講希望者に対する希望・準備学習の内容：**

フィールドワークをするので、積極的に自ら考え、行動する学生を歓迎します。

**成績評価方法：**

演習への貢献度50%、発表25%、レポート25%

教員の研究分野…18世紀におけるフライマウレイとヨハン・ヨアヒム・クリストフ・ボーデ（具体的には、フライマウレイの中に、18世紀におけるドイツ社会の共和制や民主主義思想の萌芽、並びに社会を動かす原動力を見る）

募集人員…15名程度

募集方法…アンケートと面接によって選抜

政経教養セミナー投稿 2024年度 有・2025年度 有

## 演習テーマ：現代ドイツ政治談議

### 授業内容・授業到達目標：

本演習では、受講生の皆さんが一年を通じてたくさんの本を読み、頻繁に発表し、自由闊達な議論を行えるような場を提供したいと思っています。ゼミは学生が主役だからです。

そうした作業を一年間繰り返した結果、毎日の読書習慣が自然と身につき、(考え方が異なることも多い)他のゼミ生との自由な語らいを通じて知性と感性が磨かれ、人間性が育まれることを期待しています。

演習のテーマは「現代ドイツ政治談議」としました。教養演習の上述の目的を達成するためなら本来お題目は何でも良いのですが、「座談」に花を咲かせるためにこのテーマを選びました。演習のタイトルに冠した「現代ドイツ」は単なる議論の出発点であり、最初の取っ掛かりに過ぎません。最後にどこに辿り着くかは、それぞれの受講生の興味関心の赴くところによります。「現代ドイツ」とはおおよそかけ離れた時代や場所に着地することになっても、それが「政治談議」に触発され、各人が自発的に選び取ったテーマであるならば一向に構いません。研究過程における「寄り道」や「遠回り」はむしろ大歓迎です。

授業前に友人と交わす何気ない「雑談」のひと時も、授業後に語り合う「歓談」のひと時も、「演習」の重要な構成要素の一つです。とはいえ、授業の中でさまざまな意見が飛び交い、「談論風発」することが本演習の本義であり目標です。一つの正しい意見というものがないことを互いに知り、自由と寛容について、つまり教養について考える時間と場所にできればと思っています。

### 教科書・使用教材：

以下の文献は教科書ではなく、たとえば現代ドイツをテーマにした場合の参考教材の一例です。いかなる文献を取り上げる場合であっても、それぞれの著者がどのようなスタンスで対象となるテーマを論じているのかをおさえながら読書する訓練もしていきます。

- 三好範英『ドイツリスクー「夢見る政治」が引き起こす混乱』光文社新書、2015年
- 高野弦『愛国とナチの間ーメルケルのドイツはなぜ躓いたのか』朝日新聞出版、2020年
- 藤田直央『ナショナリズムを陶冶するードイツから日本への問い』朝日新聞出版、2021年
- 熊谷徹『ドイツはなぜ日本を抜き「世界3位」になれたのか』ワニブックス、2024年
- 川口マーン恵美『移民難民ードイツからの警鐘』グッドブックス、2025年
- シュテッフエン・マウ『統一後のドイツーなぜ東は異なり続けるのか』白水社、2025年

### 受講希望者に対する希望・準備学習の内容：

- ・上述の授業内容の趣旨に賛同できる学生の参加を希望します。
- ・読書、レジュメ作成

### 成績評価方法：

演習への貢献度 50%、授業時の発表内容 30%、政経教養セミナー投稿論文 20%

教員の研究分野…ドイツ文学

募集人員…7, 8名

募集方法…初回授業時の面談(場合によっては小論文)によって決定する

政経教養セミナー投稿 2024年度 有・2025年度 有

**演習テーマ: ゲームの教育的な可能性について**

**授業内容・授業到達目標:**

この講義では、以下のことについて考える。

- (主の目的) ゲームの教育的可能性
- ゲームや遊びの定義と社会的影響
- 教育の心理学とゲームの関係性

授業外や他学部の学生、それとも学外者(ゲーム開発者や一般人)を招く「ゲームデイ」というイベントに向けて、教育ゲームを開発する参加型学習として展開します。

デジタルゲーム作成やプログラミングの授業ではありません。ボードやカードゲームを開発する授業です。例として、学生は以下のようなプロジェクトを行います。

- SDGsをテーマにしたゲーム
- 英語や外国語のスピーキングの練習が出来るゲーム
- 漢字の部首や熟語が学べるゲーム
- 政治についてわかるゲーム

**教科書・使用教材:**

教科書: なし

使用教材: ワークシートやオンライン・コンテンツを利用します。

**受講希望者に対する希望・準備学習の内容:**

- ゲーム歴の高い学生。自分の「ゲームとの付き合い方」についてしっかり考えたことのある学生。
- 授業外でも積極的にプロジェクトに取り組める学生
- 「ゲーム」の種類をスマホゲームやテレビゲームより広く知っておくこと(ボードゲーム、シリアスゲーム、拡張現実ゲームなどについて予習すると良い)。

**成績評価方法:**

作品評価 50%

授業時課題 30%

発表内容 20%

教員の研究分野…ゲーム学習、教育

募集人員…40名

募集方法…第一回の授業で選抜を行います。

政経教養セミナー投稿 2024年度 無・2025年度 無

**演習テーマ：社会科学スタディーズ入門**

**授業内容・授業到達目標：**

この演習は、大学で社会科学を学ぶ際に必要な、読む力・書く力・話す力の基礎を身につけることを目標とします。演習テーマが同一のものがいくつかあるので、内容を見て、自分に適していると思われるものを履修してください。この演習では、主に心理学に関するテーマを扱い、社会的な問題について心理学的観点から検討します。大学で学ぶ学問では、未解決の問題、いくつかの答えがありうる問題、答えのない問題に取り組みます。したがって、受動的に正解を教わるだけでなく、自ら積極的に学ぶ姿勢が求められます。そのためには、まず、学術的な文献を「読む力」が必要です。また、問いを立て、調査し、考え、導き出した見解を、レポートや論文にまとめる「書く力」が必要です。さらに、口頭で報告し、意見を交換し、討論するための「話す力」も必要です。毎回の演習では、心理学に関する基礎的な文献を読み、レジюмеを作成して報告し、討論を行います。また、各自でテーマを設定して文献を調査し、レポートにまとめます。文献の読み方、報告の仕方、レポートの書き方、調査の仕方などについて教員が丁寧に指導するとともに、グループワークを行って学生同士で教えあい学びあいます。こうした活動は、3・4年次の専門演習でより高度な学問に取り組み、卒業論文を作成するための基礎となるでしょう。

**教科書・使用教材：**

授業の際に指示します。

**受講希望者に対する希望・準備学習の内容：**

熱意をもって取り組んでください。出席と課題提出は必須です。

**成績評価方法：**

演習への参加・貢献度50% 課題への取り組み50%

教員の研究分野…社会心理学

募集人員…8～12名程度

募集方法…希望者多数の場合は抽選

政経教養セミナー投稿 2024年度 無・2025年度 無

### 演習テーマ：ジェンダーで考える歴史

#### 授業内容・授業到達目標：

この授業では、ジェンダーという視点を通じて歴史を考えてみます。ジェンダーとは、一般に、社会的に構築された性差のあり方を意味する言葉です（最近では単に性差・性別のことを表す言葉として使われることもあります）。しかし、私たちが当然に性別による違いだと思っているもの、あるいは性別だと思っているものは、本当に人間社会の普遍的な違いなのでしょう。身体には2つの性別があるという私たちの観念も、実は歴史のなかである時期に作り上げられた観念かもしれません。実はジェンダーという概念は、私たちの身体の性差への認識も、歴史の産物であり人為的な構築物である可能性を示しているのです。

歴史を学ぶことは、私たちが「当然」と思っていることを相対化し、異なる人間や社会のあり方があり得るかもしれないことを学ぶことでもあります。「当たり前」と思っている性差のあり方も実は「当たり前」ではないかもしれません。この演習はそうしたことを経験する機会にしたいと思います。歴史を通じて現在に対する新しい見方を習得することを、目標としています。

授業では、1つのテキストを毎週少しずつ読みながら、コメンテーターを1人設けて皆でディスカッションを通じて理解を深めていきます。積極的に発言し、授業に参加できる人を歓迎します。

#### 教科書・使用教材：

弓削尚子・兼子歩編『ジェンダーで学ぶ歴史学』世界思想社、2026年

このテキストは必ず購入してください。

#### 受講希望者に対する希望・準備学習の内容：

高校で「世界史B」「日本史B」か「歴史総合・日本史探究／世界史探究」を履修していること、「ジェンダー論I」を履修する／したことが望ましいですが、必須ではありません。

毎週、事前にテキストの指定された章を読み、コメントをウェブ上で提出してもらいます。当日は1人の受講者がコメンテーター役を務めます。

#### 成績評価方法：

事前コメント30% コメンテーター役20% ディスカッションへの貢献50%

教員の研究分野…アメリカ社会史、ジェンダー研究

募集人員…10-12名ほど

募集方法…希望者多数の場合は、抽選になります。

政経教養セミナー投稿 2024年度 無・2025年度 無

### 演習テーマ：舞台芸術の魅力

#### 授業内容・授業到達目標：

舞台芸術を鑑賞し、感想や意見を語り合う。

演習テーマでいう「舞台芸術」の対象ジャンルはストレートプレイ（普通の演劇）、ミュージカル（宝塚歌劇団・劇団四季など）、ダンス、日本舞踊、舞踏、オペラ、バレエ、能、狂言、歌舞伎、文楽、伝統芸能、郷土芸能、人形劇など舞台上で鑑賞できる芸術作品を指す（映画作品、J-POP、K-POP、お笑いやコント、スポーツ競技は除く）。なおミュージカル映画作品は本演習の中心的な検討対象ではない。各自がそれらを鑑賞した経験をもとに受講生の前で自身が感じた魅力を存分に語って欲しい。

授業では鑑賞した舞台芸術のデータ、具体的な舞台映像（Blu-ray & DVD、YouTubeなど）、それらについての説明を受講生が口頭発表し、その後、全体で質疑応答を行う。この作業を経ることで単に「おもしろい」「すごい」といった率直な感想から、批評的な言語を獲得し、「舞台芸術」に対する印象を理論的に語れるようになる。パワポ、紙媒体など発表の形式は一切問わない。舞台芸術への愛情が全てである。

これまでに以下の発表があった。

劇団☆新感線の魅力／学生演劇について／宝塚歌劇団について／宝塚歌劇団のファンについて／バレエの魅力／2.5次元ミュージカルの世界／「エリザベート」の魅力／劇団四季の世界／歌舞伎の世界／「キャッツ」の素晴らしさ／オペラ「アイダ」の演出／三谷幸喜のコメディ／「DREAM BOYS」の世界、など

受講生が自身の感性を磨くことはもとより、他の受講生の発表を通して多くの舞台芸術に触れ、多様な価値観を理解し、さらなる挑発の〈ステージ〉へ導かれることを期待している。

#### 教科書・使用教材：

授業中に適宜指示する。

#### 受講希望者に対する希望・準備学習の内容：

舞台芸術の鑑賞に意欲的であること。授業に積極的に参加すること。他者の価値観を尊重すること。人として礼儀正しくあること。休まないこと。体調管理をしっかりとすること。内職、居眠りは許さない。

学期を通じて最低1回の発表と毎時間の発言を求める。知らない分野でも臆することなく発言すること。また日頃より劇場などに足を運び、多くの舞台芸術に触れること。

3回の観劇レポート提出を課題とする。それゆえ、単位修得のためには春学期期間中に実際に劇場で3作品の演劇を鑑賞することが必須となる。なお観劇料が無料及び安価な公演は授業中に随時紹介する。

#### 成績評価方法：

発表内容20%、3回の観劇レポート30%、演習への貢献度50%

なお各評価項目の基準を満たしていない場合は、単位を修得することができない。

教員の研究分野…日本近代文学、日本現代演劇、国語科教育法

募集人員…20名程度

募集方法…初回授業時に選考を行う。履修希望者は必ず出席のこと。初回授業欠席の場合は履修することができない。

政経教養セミナー投稿 2024年度 無・2025年度 無

**演習テーマ：メディアの仕組みとその役割**

**授業内容・授業到達目標：**

日本および海外のメディア組織の概要と、インターネット・AI時代への急速な移行に伴うメディアの課題について研究します。日本の新聞社、テレビ局の歴史と世論形成における影響力について検討し日本の報道機関の課題を調べます。悪質なナショナリズムやポピュリズム、政治の劣化もメディアに部分的に責任があると指摘されていますが、このような批判の妥当性を検証し、健全な民主主義社会のためにメディアが果たすべき役割について議論します。またウクライナ戦争やガザ戦争とメディアの関係について研究します。

それぞれが選んだテーマで春学期後半には研究成果を発表してもらいます。

**授業到達目標：**

- 1 日本のマスメディアについて総合的に理解する。
- 2 メディアと世論の関係について知る。
- 3 インターネット・AI時代における主要報道機関の役割について学ぶ。
- 4 メディアの問題について研究し発表する。

**教科書・使用教材：**

特になし。適宜必要な資料を授業で提示します。

**受講希望者に対する希望・準備学習の内容：**

自分で関心を持ったテーマを深く調べ、発表するよう心掛けてください。授業中は積極的に発言し自分の意見を述べてください。

**成績評価方法：**

学期末発表50%、授業時の発言50%

教員の研究分野…メディア論、国際政治、アメリカ研究、中東研究、経済安全保障  
募集人員…10人程度  
募集方法…応募者が多い場合は選抜します  
政経教養セミナー投稿 2024年度 無・2025年度 無

演習テーマ：財政と税入門

授業内容：財政と税の基本を学びます。

- 税金の高い北欧、スウェーデンの国民は不幸せなのか。税金の安い国の国民は幸せなのか。  
→ 一人当たり GDP 北欧は概して高い  
国や地方自治体などの公共部門は、民間企業の取引とどこが違うのか。→ 強制（無理やり）、無償（個人には戻らない）が税の原則  
少子化、高齢化は不幸せなのか。→ 長生きする人が増えたということではないの？  
外国人との共生をどう考えるか。→ 日本は世界でみても外国人少ない国（OECD 平均は10%くらいか）、で、人口減少局面  
国債をどんどん発行しても大丈夫なのか。→ 政府が発行する紙幣は信用がベース  
日本をどう評価したらいいのか、国際比較してみたい。→ データを見よう。知らないことがたくさんある。  
日本は福祉国家か。→ 福利厚生を入れれば。  
安心安全なまちづくりには → みんなが幸せであることが条件、インフラの維持管理を進める → 財源が必要

授業の到達目標：

- みんなで幸せになるにはどうしたらいいのか。  
問題意識をもてる学生の養成。何か政治経済、地域に問題らしきものがあつた場合、どう評価したらいいのか、当てべき物差し、考えをもてるような学生の養成が到達目標です。

教科書・使用教材：

- 『あなた自身の社会—スウェーデンの中学教科書』新評論。  
『財政のかたちは国のかたち』朝陽会、2022年。  
『スウェーデン高い税金と豊かな生活』イマジン出版、2008年。

受講希望者に対する希望・準備学習の内容：

- 積極的に議論したい学生の参加を希望します。

成績評価方法：

- 演習中の議論への参加度50%、レポート50%

教員の研究分野…財政学、地方財政論、租税論、北欧財政  
募集人員…10名  
募集方法…第1回目に集まってください。  
政経教養セミナー投稿 2024年度 無・2025年度 無

## 演習テーマ：英語で学び、協働し、発信する

## — 留学に備え、未来につながる 脳科学X実践プロジェクト —

## 授業内容・授業到達目標：

本演習は、ACE 科目を履修している、または履修経験のある学生を主な対象とした少人数制の演習である。長期留学や国際的な環境での学び・活動を見据え、英語で学び、考え、発信し、協働する力を段階的に高めていくことを目的とする。また、本演習では、意欲の高い仲間と共に学び合い、互いに刺激を受けながら成長していく学習コミュニティ作りを大切にしている。

授業は原則として英語で行い、ディスカッションやグループワーク、クイズ形式の活動などを繰り返しながら、英語で考え、伝える力を実践的に伸ばしていく。特に、**神経科学に基づいた学習と習慣形成**（睡眠、記憶、運動、ボディランゲージ等）に焦点を当て、**ポジティブ心理学やマインドfulness、演劇的学習法**も取り入れながら、集中力や学習効率、コミュニケーション力を高める方法を学ぶ。これらを、留学や将来の学習・活動の場面で活かせるよう、日常の学習習慣として定着させていく。

また、本演習では、授業時間内にとどまらず、授業外でも英語に触れる機会を大切にしている。受講者同士の会話練習や、オンライン動画・記事・SNS等を活用した課題を通して、仲間と刺激し合いながら英語に触れる時間を確保する。英会話力に不安があっても、意欲を持って積極的に参加すれば、次第に英語でやりとりすることに慣れていく。

春学期中盤から後半にかけては、**留学や国際的なキャリアを経験したACEプログラムの先輩・卒業生**を招くトークイベントについて、企画立案から準備、広報、連絡・調整までを行う**プロジェクト型学習**に取り組む。チームとして協働しながら一つの企画を形にする経験を通して、実践的な英語使用力を高めるとともに、**将来の進路や人生に影響を与えるメンターとの出会い**を得ることも本演習の重要な目標の一つである。実際の企画運営を経験しながら、社会で求められる**コミュニケーション力やチームワーク**も身につけていく。

さらに、夏期に実施される合宿や夏の課題を通じて、神経科学に関する内容を英語でより深く学び、書籍や映画などを題材とした発展的な学習に取り組む機会も提供する。春学期は基盤形成に重点を置き、秋学期の発表活動やより高度な実践的学びへとつなげる構成とする。

なお、この授業は、授業担当者の難病による障害に対する合理的配慮の一環として、特別にZoomでのリアルタイム授業が設定されている。将来、Zoomによる国際会議やビジネスミーティング等に参加する機会も増えていくと考えられるため、Zoomの長所を最大限に活かして、対面でもオンラインでも自信を持って英語でコミュニケーションし、ディスカッションやプレゼン等ができる力を養っていくことを本授業の目標のひとつとしている。

\*この授業は指定された教室において、Zoomを使用して開講される。特に次の点に留意した上で履修すること。

- ・履修者が各自でPCとヘッドセット、またはイヤホン（マイク付き）を準備すること。
- ・指定された教室以外での受講は不可であること。

## 教科書・使用教材：

Study Skills for College English 2nd Edition

（慶應義塾大学経済学部英語部会 編著）定価：1,050円

※授業では、上記教科書に加え、オンライン動画、記事、配布資料等を適宜使用する。

参考図書：

Go Wild. John Ratey and Richard Manning, 2015. ¥1,904

Brain Rules. John Medina, 2014. ¥1,609

Presentation Zen, 3rd Ed. Garr Raynolds, 2019. ¥5,907

## 受講希望者に対する希望・準備学習の内容：

本演習では、授業内外を通して英語に触れる時間をできるだけ多く確保し、いわば「英語漬け」に近い学習環境の中で学ぶことを大切にしている。授業は主に英語で行われ、ディスカッションや課題を通して英語を使う機会を多く持つ。

課題では、TED Talks や記事、書籍、SNS等を活用し、学生自身が関心のある題材を選ぶことも多い。クイズ形式の活動やディスカッションを通して、留学先でも求められる質問力や応答力を養う。

本演習は春学期・秋学期それぞれ独立した科目として開講されるが、内容は相互に関連しているため、可能であれば通年で履修を強く推奨する。春学期は、英語で学び・協働し・発信することに慣れることを目標に、神経科学に基づく学習法やコミュニケーションの基礎を実践的に学ぶ。

さらに夏期に実施される合宿や夏の課題を通じて、神経科学に関する内容を英語でより深く学び、各自が選ぶ映画などを題材とし、楽しみながら英語の総合能力を向上させる。これらの経験は、秋学期のドラマメソッドを取り入れた学習活動やプレゼンテーション、より高度な実践的学びへとつなげる設計となっている。

## 成績評価方法：

出席・授業参加度：30%

（特別な事情を除き、半期3回以上の欠席、または大幅な遅刻・早退があった場合は、原則として単位は認定されない。イベント等への参加もこの評価に含む。）

投稿・レポート・その他の筆記課題：40%

（すべての課題を完了・提出しなければ、単位は認定されない。）

プロジェクトへの貢献度：30%

（イベント企画・準備・広報・運営等における役割遂行、協働姿勢、責任ある行動、英語での実践的な関与を総合的に評価する。）

教員の研究分野…英語教授法。脳科学、ポジティブ心理学等を基礎としたウェルビーイングの知見を生かした語学学習・教授法。プレゼンテーション指導法。演劇、多読、多視聴による自律的外国語学習とその支援。

募集人員…8名程度

募集方法…TOEIC 520点以上、ACE 科目、留学準備講座、あるいはトップスクールセミナーに秋学期に少なくとも1コマ履修登録していることが最低条件です。初回授業にTOEIC、TOEFL、IELTS、英検等のスコア、ACE履修申し込みのエントリーシートのコピー、そして個人の時間割（その時点のもの）を持参し、ファイル、あるいは写メなどで提出できるように用意しておいてください。このシラバスの内容を熟読して初回授業に臨んでください。英語と日本語の面接等を経て、受講者を決定します。

政経教養セミナー投稿 2024年度 無・2025年度 無

**演習テーマ：演劇を介してコミュニケーション力を向上させよう**

**授業内容・授業到達目標：**

ITが発展すればするほど、私たちの人間性は退化しているようだ。インターネット・AIの普及により、自分の言葉や身振りで表す感情の役割を絵文字にまかせるだけでなく、考えることも避けるようになり、自分の感情は愚か、他者の感情を汲みとるのも難しくなってしまった。また、本来感情(emotion)とは動き・行動(motion)を伴うものであるはずなのに、ヴァーチャルな媒体に気持ちを任せてしまうと、感情と行動が分断されてしまう。さらには、過剰なルッキズム指向により、本来の自分と素直に向き合えなくなってきた者もいる。この演習では、演劇やパフォーマンスがこれまでも他者理解に用いられてきたことに着目し、創造したり演じたりすることで、自分や他者の理解を深め、自分を取り巻く環境について身体表現を通して見つめ直し、コミュニケーション力を向上させることを目的とする。授業はワークショップ形式で実施する。シアターゲーム、即興、身体を使ったアクティビティからはじめ、受講者同士の緊張を解き、安全な場作りを試みる。次に、リラックスしながら集中し、想像力を高めていくような演劇的エクササイズへと発展させ、徐々に創作のプロセスへと入っていく。創作のテーマは受講者とコンセンサスをえて決め、成果は最終的に発表(非公開)という形で締めくくりたい。

**教科書・使用教材：**

プリント

**受講希望者に対する希望・準備学習の内容：**

- ・差別的な言動は控えること。
- ・身体や五感、想像力・創造力を使って学んでいくため、自分の身の回りで起きていること、自分のうちで起きていることに敏感であってほしい。また、授業中に提示された参考文献や参考資料は必ず目を通すとともに、課題には情熱をもって取り組んでほしい。

**成績評価方法：**

授業への参加度・貢献度(50%)、成果発表(50%)

教員の研究分野…スペイン語圏文学・演劇

募集人員…10名

募集方法…受講希望者は仮登録を行なった上で必ず初回授業に参加してください。希望者が多い場合は、簡単なエッセイの執筆および面接で選考します。

政経教養セミナー投稿 2024年度 無・2025年度 無

### 演習テーマ：生成AIを活用する

#### 授業内容・授業到達目標：

この授業では、生成 AI、特に LLM (Large Language Models: 大規模言語モデル) の学術的利用について学びます。ただ、「学術的」とは言っても、教養演習は大学 1 年生および 2 年生を対象とした科目ですから、実際には「学術的利用の初歩」において ChatGPT や Gemini・Claude 等の LLM を利用する方法を学習します。

LLM はその性能を驚くべき速度で向上させています。現状、LLM の使用はまだ一般的という水準にはありません。しかし、たとえば現在、スマートフォンを使用していないひとが少なくないように、LLM もありふれたものになる将来が予想されます。

つまり、今後は大学の学びにおいても LLM の使用が前提となるはずで、現時点では、LLM の学術的利用方法は未だ確立されたものとはいえません。この演習では、LLM をどのように使用すれば、知的生産に役立つのかを考えていきます。

具体的な授業内容としては、授業を受講する際のサポートツールとしての使用を学びます。

たとえば、複数の論文を管理・要約する、データ処理を効率的・効果的に行う、執筆したレポートの質を向上させるといった方法を学びます。

#### 教科書・使用教材：

必要に応じて指示します。なお、授業にはノートパソコン (Windows) を必ず持参してください (Mac は授業担当者のサポート対象外です)。マシンスペックとしては、ストレージ容量は SSD で 256GB 以上、メモリは 8GB 以上を目安にしてください。CPU は、過去 2 年以内に発売されたノートパソコンであれば問題ないでしょう。

なお、教室では電源供給ができないため、100 分の授業時間に十分な充電状況で臨んでください。

#### 受講希望者に対する希望・準備学習の内容：

- ・授業への参加に積極的であること。
- ・半期あたり総授業回数の 1/3 以上を遅刻または欠席した場合、単位認定の対象としません。
- ・原則として、植田が担当する春学期開講の「教養演習 A」と秋学期開講の「教養演習 B」を重複しての履修は認めません。

#### 成績評価方法：

演習発表：100%

教員の研究分野…日本語学・日本文学

募集人員…10名程度

募集方法…初回授業にて選考を行う。

政経教養セミナー投稿 2024年度 無・2025年度 無

**演習テーマ：社会科学スタディーズ入門**

**授業内容・授業到達目標：**

この演習は、大学で社会科学を学ぶ際に必要な、読む力・書く力・話す力の基礎を身につけることを目標とします。演習テーマが同一のものがいくつかあるので、内容を見て、自分に適していると思われるものを履修してください。この演習では、主に政治学に関するテーマを扱い、現在、政治の世界で問題になっている話題を取り上げます。

大学で学ぶ学問では、未解決の問題、いくつもの答えがありうる問題、答えのない問題に取り組めます。したがって、受動的に正解を教わるだけでなく、自ら積極的に学ぶ姿勢が求められます。そのためには、まず、学術的な文献を「読む力」が必要です。また、問いを立て、調査し、考え、導き出した見解を、レポートや論文にまとめる「書く力」が必要です。さらに、口頭で報告し、意見を交換し、討論するための「話す力」も必要です。

毎回の演習では、政治学に関する基礎的な文献を読み、レジュメを作成して報告し、討論を行います。また、各自でテーマを設定して文献を調査し、レポートにまとめます。文献の読み方、報告の仕方、レポートの書き方、調査の仕方などについて教員が丁寧に指導するとともに、グループワークを行って学生同士で教えあい学びあいます。こうした活動は、3・4年次の専門演習でより高度な学問に取り組み、卒業論文を作成するための基礎となるでしょう。

**教科書・使用教材：**

授業の際に指示します。

**受講希望者に対する希望・準備学習の内容：**

熱意をもって取り組んでください。出席と課題提出は必須です。

**成績評価方法：**

演習への参加・貢献度50% 課題への取り組み50%

教員の研究分野…日本政治思想史、江戸時代の政治思想、言語研究と政治思想の関係  
募集人員…10～15名程度  
募集方法…希望者多数の場合は抽選  
政経教養セミナー投稿 2024年度 無・2025年度 無

**演習テーマ: デジタルゲーム制作を通して、プログラミングの基礎を学ぼう**

**授業内容・授業到達目標:**

この演習では、プログラミング・アート・音楽・ゲームロジックを通じて、デジタルゲーム制作を一から学びます。ゲーム開発を楽しみながら、創造力を高め、チームで協力して作品を作り上げる体験ができます。ゲーム制作を通じて以下のスキルを習得します。

- 1) **想像力:** 自分のアイデアをゲームという形にし、他の学生と意見を交換しながら創造性を広げます。
- 2) **プログラミング基礎:** プログラミングを学び、ゲーム開発に必要な基礎知識を身につけます。
- 3) **デジタルアート&音楽:** ゲームに個性を加えるデザインやサウンド制作にも挑戦します。
- 4) **英語スキル:** ゲーム制作は国際的なコミュニティとのつながりが重要。英語の教材やオンラインリソースを活用しながら、英語力も高めます。

**教科書・使用教材:**

教科書: なし

使用教材: ワークシートやオンライン・コンテンツを利用します。

**受講希望者に対する希望・準備学習の内容:**

- ・ゲームデザインに興味があること
- ・パソコンを持参し、基本的な操作ができること (ICTベーシックの履修を推奨)
- ・英語の教材やオンラインコミュニティに積極的に取り組む意欲があること
- ・初回授業で面接を実施し、参加者を選抜します

**成績評価方法:**

- ・作品評価: 50% (最終的なゲームの完成度)
- ・授業内課題: 30% (日々の努力と進捗)
- ・発表内容: 20% (制作したゲームのプレゼンテーション)

教員の研究分野…ゲーム学習、教育

募集人員…20名

募集方法…第一回の授業で選抜を行います。

政経教養セミナー投稿 2024年度 無・2025年度 無

演習テーマ：フランスからみえる世界—社会、政治、文化、人の暮らし—

授業内容・授業到達目標：

この授業では、フランスという国をいろいろなトピックから見ていきます。具体的に扱うテーマは、モードやスポーツ、音楽などの文化から、ジェンダーやLGBT、多様化する家族のあり方、さらには移民・難民や学校教育、政治・外交問題まで、受講生の関心に合わせて選びます（以下の各授業回のトピックは仮）。授業の目的は、フランス国家・社会・文化の特徴を多角的に理解しながら、世界を観察する一つの知的な軸を手に入れてもらうことです。また、文献の探し方、レジュメの作成法やレポートの書き方などアカデミック・ライティングの基礎を学びます。

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 文献の探し方・図書館の使い方
- 第3回 レジュメ作成法、アカデミック・ライティングの基礎
- 第4回 若者、移民・難民、人種差別
- 第5回 家族、子育て、結婚・パックス
- 第6回 ジェンダー、LGBT
- 第7回 教育、学校、ライシテ
- 第8回 言語、モード、音楽
- 第9回 映画、マンガ、ワイン・食、スポーツ
- 第10回 経済、働き方、失業問題、福祉
- 第11回 政治：共和国、海外県、右派と左派
- 第12回 政治：人権、パリテ（男女同数）
- 第13回 外交：EU、フランスとアメリカ、フランコフォニー、文化外交など
- 第14回 ディスカッション

教科書・使用教材：

三浦信孝・西山教行編『現代フランス社会を知るための62章』明石書店、2010年。

そのほかについては適宜、受講生と相談の上で決めていきます。

受講希望者に対する希望・準備学習の内容：

各自でテーマを設定して、関連する文献（本、論文など）を探し、調べたことをまとめて発表し、最終的にレポートを書いてもらいます。また、授業内でのディスカッションの時間も重視します。フランス語を履修している必要はありませんが、せっかくなのでこの機会にフランス語にも触れてみてほしいと思います。

成績評価方法：

- レジュメ作成、プレゼンテーション…30%
- 授業時のディスカッション、課題への取り組み…30%
- 学期末の研究レポート…40%

教員の研究分野…フランス近現代史（主に教育、ジェンダー、宗教問題、植民地）  
募集人員…10～15名程度  
募集方法…希望者が多い場合には、初回授業で作文をしてもらいます。  
政経教養セミナー投稿 2024年度 無・2025年度 無

**演習テーマ：くずし字で書かれた文章を読む**

**授業内容・授業到達目標：**

「くずし字」は漢字を行書体や草書体にした文字のことで、手書きの文書や近代以前の出版物に用いられています。その中には、現代のひらがな・カタカナのように、文字それ自体には意味を持たずに、音のみを表す「変体仮名」も含まれています。現代でも、お蕎麦屋さんの看板やお箸の袋などで、目にする機会の多いものです。

漢字のくずし方は筆者によって差異がありますし、「変体仮名」は元となる漢字（「字母」といいます）が複数あるため、慣れるまで読むことが難しいです。

しかし、字母を知り、くずし方のパターンを覚えると、かなり読めるようになるものです。くずし字を読めるようになれば、博物館・美術館で見る書跡や文書、訪れた地の歌碑などの碑文を、自分で読むことができるようになります。

本演習では、はじめに、一つの音を表す字が複数あることを確認した後、短い文章をいくつか読み、くずし字に慣れていきます。

その後、メンバーの習熟度や関心に応じて、くずし字テキストを選び、分担して翻字（書かれていることを現代の文字遣いで表すこと）をします。書かれている内容をつかみ、分析することを目指します。

**教科書・使用教材：**

中野幸一編『変体仮名の手引〔改訂増補〕』武蔵野書院

その他、必要に応じて指示します。

**受講希望者に対する希望・準備学習の内容：**

すでに翻刻のある作品を扱うこともあるかもしれませんが、そうした場合にも、既存の翻刻を疑い、自らの力で読み解く姿勢を持つ学生の参加を待っています。

また、授業総回数の1/3以上を遅刻または欠席した場合、単位を認めません。

**準備学習：指定の文書の翻字・現代語訳**

**成績評価方法：**

発表の内容50%、演習内の発言の質50%

教員の研究分野…日本古代文学

募集人員…10名程度

募集方法…初回授業に出席すること。人数が多い場合は筆記試験を行います。

政経教養セミナー投稿 2024年度 無・2025年度 無

**演習テーマ：現代社会をジェンダーで考える**

**授業内容・授業到達目標：**

この授業では、ジェンダーという視点を通じて現代社会を考えます。ジェンダーとは、一般に、社会的に構築された性差のあり方を意味する言葉です（最近では単に性差・性別のことを表す言葉として使われることもあります）。しかし、私たちが当然に性別による違いだと思っているもの、あるいは性別だと思っているものは、本当に人間社会の普遍的な違いなのでしょう。身体には2つの性別があるという私たちの観念も、実は歴史のなかである時期に作り上げられた観念かもしれません。実はジェンダーという概念は、私たちの身体の性差への認識さえも、社会の産物であり人為的な構築物である可能性を示しているのです。

この演習では、いくつかの商業オピニオン誌に掲載された論説や一般向け書籍を読みながら、現代日本社会における政治や教育など「ジェンダー」をめぐる諸問題を考えていきます。毎回、少しずつ論説や書籍を読み進め、毎週コメンテーターを1人立ててディスカッションをおこないます。積極的に発言し、ディスカッションに貢献してくれる人を歓迎します。

**教科書・使用教材：**

以下の書籍は必ず購入してください。

- ・三浦まり『さらば、男性政治』岩波新書、2023年
- ・西井開『「非モテ」からはじめる男性学』集英社新書、2021年

その他のテキストは担当教員の方で用意します。

**受講希望者に対する希望・準備学習の内容：**

「ジェンダー論 I」を履修する／したことが望ましいですが、必須ではありません。

毎週、指定されたテキストを読み、事前にコメントをウェブ上で提出してもらいます。当日は1人コメンテーターを立て、ディスカッションを行います。

**成績評価方法：**

事前コメント 30%    コメンテーター役 20%    ディスカッションへの貢献 50%

教員の研究分野…アメリカ社会史、ジェンダー研究

募集人員…10～12人ほど

募集方法…希望者多数の場合は抽選となります。

政経教養セミナー投稿    2024年度 無・2025年度 無

**演習テーマ：魯迅を読む**

**授業内容・授業到達目標：**

中国の近代文学の父、魯迅を輪読します。中国語の原典と訳文、両方を使います。授業では、原典を中国語で発音してもらいます。ディスカッションは日本語でやります。魯迅を理解することは、中国近代の生成に向かう途上の苦しさや中国近代が挑戦して来た精神革命の内容を知ることにつながります。そのためには、中国語で発音して中国語の中で理解する、ということも必要になると思います。到達目標は、中国近代における心理葛藤について、中国語内部の感覚を通じて理解することです。

**教科書・使用教材：**

魯迅の原典のテキストは、ネット上にあります。訳文(日本語)は、戦前のものは古すぎるのでやめてください。戦後のもの、竹内好訳を使います。岩波文庫のものでもよいです。また、ちくま文庫の版でもよいです。

**受講希望者に対する希望・準備学習の内容：**

原典を中国語で発音できるように、予習して来てください。

**成績評価方法：**

発音の上達度、魯迅の文学世界の理解がどれくらい進んでいるか、で成績を判断します。中国語を母語とする学生に対する評価は、ディスカッションの参加度、魯迅の世界の理解について、日本語できちんと伝えられるか、ということにします。

教員の研究分野…中国文学、台湾文学、日本文学

募集人員…5名

募集方法…一回目の時に、授業の進め方を確認します。ついて来れる人にだけ参加してもらいます。

政経教養セミナー投稿 2024年度 無・2025年度 無

教授 嶋田 直哉 水曜3時限（秋学期）

担当科目：日本文学、国語表現、日本・アジア地域論A、日本・アジア文化論A

演習テーマ：読書マラソンー日本近代文学編

授業内容・授業到達目標：

日本近代文学の名作をマラソンのように読み続ける。

以下の作家、作品を予定している。なお、履修者の興味関心、理解度により作品は変更することがある。

樋口一葉「たけくらべ」  
島崎藤村「破戒」  
田山花袋「蒲団」  
江戸川乱歩「D坂の殺人事件」  
谷崎潤一郎「春琴抄」  
川端康成「伊豆の踊子」  
永井荷風「瀬東綺譚」  
太宰治「斜陽」  
三島由紀夫「金閣寺」  
大岡昇平「野火」  
遠藤周作「沈黙」

高等学校時代の国語の授業、日本史の授業（文化史分野）などで作者作品名は耳にしたことはあるが、実際に読む機会がなかった（と推測される）作品を取り上げる。授業では課題図書についての読書体験そのものを報告してもらおう。課題図書を通読できなかったならば、その理由を言語化し、報告できるようにすることが大切である。もちろん課題図書を全編通読し、感想の共有や作品の討議を最終的な目標にするが、その前段階にあたる読書の方法を身につけることが本授業の最大の目標である。得手不得手はともかく、読書について強い意欲のある学生を歓迎する。やる気の無い学生は絶対に履修してはならない。

教科書・使用教材：

授業中に適宜指示する。

受講希望者に対する希望・準備学習の内容：

課題図書を読もうとする強い意志を持つこと。担当者（嶋田）の「日本文学」（春学期）を受講していることが望ましい（授業内容は一部重複する）が、未受講でも構わない。

成績評価方法：

発表内容20%、作品ごとの読書レポート30%、演習への貢献度50%

なお各評価項目の基準を満たしていない場合は、単位を修得することができない。

教員の研究分野…日本近代文学、日本現代演劇、国語科教育法

募集人員…10名程度

募集方法…初回授業時に選考を行う。履修希望者は必ず出席のこと。初回授業欠席の場合は履修することができない。

政経教養セミナー投稿 2024年度 無・2025年度 無

**演習テーマ：中東の戦争と平和を考える**

**授業内容・授業到達目標：**

この演習では、中東で起きた／起きている紛争について調べ、発表・ディスカッションなどを通して考察し、集合知をつちかうことを目指す。その過程で、「紛争ばかり／危険な中東」のイメージの由来や組成をさまざまな角度から解きほぐし、遠くにある怖い場所に住んでいる人々を「他者」として忌避するのではなく、自分たちとは文化的に異なっても理解可能な人々とわかってほしい。

具体的な紛争（ガザ戦争、シリア内戦、その他）、「人間の安全保障」など平和的なアプローチの理論などをトピックとして設定し、プレゼンテーション（発表）やディスカッション、ディベートなど双方向的なコミュニケーションによって、学ぶことのおもしろさを知り、理解を深める技術が身に着くように組み立ててゆきたい。

また、宗教紛争という誤解、国際的な力学、欧米のマスメディアやポップカルチャーにある歪曲、「民族問題」など、中東理解を難しくしている諸要因についても考察を深め、中東／西アジアの文化・文明の豊かさや奥深さのなかにさまざまなトピックを位置付ける観点を築きたい。

**教科書・使用教材：**

教科書は特に指定しない。教材や資料は適宜紹介する。

**受講希望者に対する希望・準備学習の内容：**

大学受験レベルの世界史か世界地理の知識を持ち文化論概論を履修していることがのぞましいが、それがなくとも、自身でその分をカバーして履修してもらうことはできる。

履修学生によるプレゼンテーションを中心に演習を進めるので、自分（たち）で引き受けたトピックについて、主体的に取り組むこと、授業時間外でも必要な情報をサーチしたり、機動的に動いたりして報告できるようにすることが求められる。

**成績評価方法：**

演習の時間内のパフォーマンス（プレゼンなど）50%、パフォーマンスを受けてのコメントや議論への貢献度50%

教員の研究分野…西アジア地域研究、文化論

募集人員…10名程度

募集方法…初回の演習に来てもらい、真摯に参加する意思を確認する

政経教養セミナー投稿 2024年度 無・2025年度 無

**演習テーマ：英語で学び、協働し、発信する****— 留学に備え、未来につながる 脳科学X実践プロジェクト —****授業内容・授業到達目標：**

本演習（秋学期）は、長期留学やグローバルな学び・キャリアを見据え、英語で学び、考え、発信し、他者と協働する力を、実践的なプロジェクトとプレゼンテーションを通して高めることを目的とする。春学期から継続して履修する学生に加え、秋学期から履修を開始する学生も対象とし、いずれの履修形態でも無理なく参加できる構成とする。

学期前半から中盤にかけては、英語でのディスカッションやグループワーク、クイズ形式の活動を行いながら、神経科学・学習科学に基づく効果的な学習法や習慣形成（睡眠、記憶、運動、集中、ボディランゲージ等）を扱う。この際、春学期からの履修者が自身の経験をもとに内容や活動を紹介・共有し、秋学期からの履修者と学びをつなぐことで、履修時期の違いによる差を埋めながら学習を進め、且つ通年履修者にはより学びを深め、英語で他者をファンリテイとする自信を付ける絶好の機会となる。

また、春学期とは一部異なる活動として、ドラマの要素（即興的なロールプレイや身体表現を用いた活動等）をより多く取り入れ、英語での発話や表現に対する心理的なハードルを下げるとともに、春学期履修者にとっても新鮮な学習体験となるよう工夫する。

同時に、学期を通して、留学やグローバルなキャリア経験を有するACEプログラムの先輩・卒業生のお話を聞くトークイベントの企画・準備・運営を、プロジェクト型学習として進める。英語での調整、広報、役割分担、実践的なやり取りを通じて、協働的に成果を形にする経験を重視する。チームとして協働しながら一つの企画を形にする経験を通じて、実践的な英語使用力を養うとともに、将来の進路や人生に大きな影響を与えうるメンターとの出会いを得ることも、本演習の重要な到達目標の一つとする。

学期後半の4～5回は、上記のイベント準備と並行して、プレゼンテーション能力の集中的な向上期間とし、内容構成、ストーリーテリング、スライドデザイン、声の使い方、ボディランゲージなどを体系的に学ぶ。これらのスキルは、イベント時の発表や関連する共有の場で実際に活用・披露することを想定している。

英語での実践的な発信、チームでの協働、そして成果を他者に伝える経験を通して、留学や将来の学修・キャリアに直結する力を身につけることを、本演習の到達目標とする。

なお、本授業は担当教員の障害に対する合理的配慮の一環として、教室での受講とZoomによるリアルタイム授業を組み合わせた形で実施する。将来、国際会議やオンラインミーティングなどで求められるオンラインコミュニケーション能力も視野に入れ、対面・オンライン双方の環境で英語によるディスカッションやプレゼンテーションができる力を養う。

\*この授業は指定された教室において、Zoomを使用して開講される。特に次の点に留意した上で履修すること。

- ・履修者が各自でPCとヘッドセット、またはイヤホン（マイク付き）を準備すること。
- ・指定された教室以外での受講は不可であること。

**教科書・使用教材：**

Study Skills for College English 2nd Edition

（慶應義塾大学経済学部英語部会 編著）定価：1,050円

※授業では、上記教科書に加え、オンライン動画、記事、配布資料等を適宜使用する。

参考図書：

Go Wild. John Ratey and Richard Manning, 2015. ¥1,904

Brain Rules. John Medina, 2014. ¥1,609

Presentation Zen, 3rd Ed. Garr Raynolds, 2019. ¥5,907

**受講希望者に対する希望・準備学習の内容：**

本演習では、授業内外を通じて英語に触れる時間を十分に確保し、いわば「英語漬け」に近い学習環境の中で学ぶことを大切にしている。授業は主に英語で行われ、ディスカッションや課題を通して英語を使う機会を多く持つ。

課題では、TED Talksや記事、書籍、SNS等を活用し、学生自身が関心のある題材を選ぶことも多い。クイズ形式の活動やディスカッションを通して、留学先でも求められる質問力や応答力を養う。

本演習は春学期・秋学期それぞれ独立した科目として開講されるが、内容は相互に関連しているため、可能であれば通年での履修を強く推奨する。

**成績評価方法：**

出席・授業参加度：20%

（特別な事情を除き、半期3回以上の欠席、または大幅な遅刻・早退があった場合は、原則として単位は認定されない。イベント等への参加もこの評価に含む。）

課題・レポート・準備学習：30%

（すべての課題を完了・提出しなければ、単位は認定されない。）

プロジェクトへの貢献度：25%

（イベント企画・準備・広報・運営等における役割遂行、協働姿勢、責任ある行動、英語での実践的関与を総合的に評価する。）

プレゼンテーション・口頭発表：25%

**教員の研究分野**…英語教授法。脳科学、ポジティブ心理学等を基礎としたウェルビーイングの知見を生かした語学学習・教授法。プレゼンテーション指導法。演劇、多読、多視聴による自律的外国語学習とその支援。

**募集人員**…8名程度

**募集方法**…TOEIC 520点以上、ACE科目、留学準備講座、あるいはトップスクールセミナーに秋学期に少なくとも1コマ履修登録していることが最低条件です。初回授業にTOEIC、TOEFL、IELTS、英検等のスコア、ACE履修申し込みのエントリーシートのコピー、そして個人の時間割（その時点のもの）を持参し、ファイル、あるいは写メなどで提出できるように用意しておいてください。このシラバスの内容を熟読して初回授業に臨んでください。英語と日本語の面接等を経て、受講者を決定します。

**政経教養セミナー投稿** 2024年度 無・2025年度 無

### 演習テーマ：生成AIを活用する

#### 授業内容・授業到達目標：

この授業では、生成 AI、特に LLM (Large Language Models: 大規模言語モデル) の学術的利用について学びます。ただ、「学術的」とは言っても、教養演習は大学 1 年生および 2 年生を対象とした科目ですから、実際には「学術的利用の初歩」において ChatGPT や Gemini・Claude 等の LLM を利用する方法を学習します。

LLM はその性能を驚くべき速度で向上させています。現状、LLM の使用はまだ一般的という水準にはありません。しかし、たとえば現在、スマートフォンを使用していないひとが少ないように、LLM もありふれたものになる将来が予想されます。

つまり、今後は大学の学びにおいても LLM の使用が前提となるはずですが、現時点では、LLM の学術的利用方法は未だ確立されたものとはいえません。この演習では、LLM をどのように使用すれば、知的生産に役立つのかを考えていきます。

具体的な授業内容としては、授業を受講する際のサポートツールとしての使用を学びます。

たとえば、複数の論文を管理・要約する、データ処理を効率的・効果的に行う、執筆したレポートの質を向上させるといった方法を学びます。

#### 教科書・使用教材：

必要に応じて指示します。なお、授業にはノートパソコン (Windows) を必ず持参してください (Mac は授業担当者のサポート対象外です)。マシンスペックとしては、ストレージ容量は SSD で 256GB 以上、メモリは 8GB 以上を目安にしてください。CPU は、過去 2 年以内に発売されたノートパソコンであれば問題ないでしょう。

なお、教室では電源供給ができないため、100 分の授業時間に十分な充電状況で臨んでください。

#### 受講希望者に対する希望・準備学習の内容：

- ・授業への参加に積極的であること。
- ・半期あたり総授業回数の 1/3 以上を遅刻または欠席した場合、単位認定の対象としません。
- ・原則として、植田が担当する春学期開講の「教養演習 A」と秋学期開講の「教養演習 B」を重複しての履修は認めません。

#### 成績評価方法：

演習発表：100%

教員の研究分野…日本語学・日本文学

募集人員…10 名程度

募集方法…初回授業にて選考を行う。

政経教養セミナー投稿 2024 年度 無・2025 年度 無

**演習テーマ：社会科学スタディーズ入門**

**授業内容・授業到達目標：**

この演習は、大学で社会科学を学ぶ際に必要な、読む力・書く力・話す力の基礎を身につけることを目標とします。演習テーマが同一のものがいくつかあるので、内容を見て、自分に適していると思われるものを履修してください。この演習では、主に政治学に関するテーマを扱い、政治的な問題について歴史的・思想的観点から検討します。

大学で学ぶ学問では、未解決の問題、いくつもの答えがありうる問題、答えのない問題に取り組めます。したがって、受動的に正解を教わるだけでなく、自ら積極的に学ぶ姿勢が求められます。そのためには、まず、学術的な文献を「読む力」が必要です。また、問いを立て、調査し、考え、導き出した見解を、レポートや論文にまとめる「書く力」が必要です。さらに、口頭で報告し、意見を交換し、討論するための「話す力」も必要です。

毎回の演習では、政治学に関する基礎的な文献を読み、レジュメを作成して報告し、討論を行います。また、各自でテーマを設定して文献を調査し、レポートにまとめます。文献の読み方、報告の仕方、レポートの書き方、調査の仕方などについて教員が丁寧に指導するとともに、グループワークを行って学生同士で教えあい学びあいます。こうした活動は、3・4年次の専門演習でより高度な学問に取り組み、卒業論文を作成するための基礎となるでしょう。

**教科書・使用教材：**

授業の際に指示します。

**受講希望者に対する希望・準備学習の内容：**

熱意をもって取り組んでください。出席と課題提出は必須です。

**成績評価方法：**

演習への参加・貢献度50% 課題への取り組み50%

教員の研究分野…日本政治思想史、江戸時代の政治思想、言語研究と政治思想の関係  
募集人員…10～15名程度  
募集方法…希望者多数の場合は抽選  
政経教養セミナー投稿 2024年度 無・2025年度 無





